

大谷大学広報

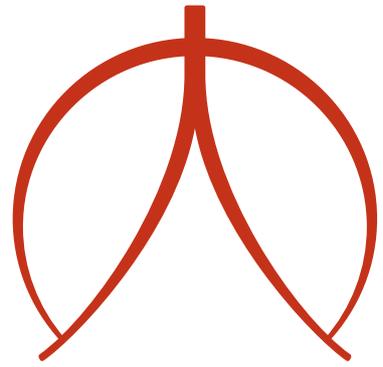
編集 大谷大学広報編集委員会

No.153

2003年4月2日

2003

春



冬扇

旧暦一月、亜熱帯の島、沖縄でも、風の冷たさにセーターが欲しくなる時季、砂糖キビ畑では普段「足が痛い」とぼやいているオジイ、オバアまで刈り取り作業で忙しくなる。キビの収穫はまず、葉っぱを削ぎ落とすところから始まる。二股になった鎌を上から下まで、重力の法則に従って動かすなら、自然と枯れた葉は落ちて、紫やベージュの節のある茎が現れて

くる。しごく簡単である。キビが真直ぐに伸びきっているならば。

キビは真直ぐに伸びるものである。ところが一年と半年の成長期に、台風にみまわれ、キビは垂直90度ではなく、60度、45度、または水平に突き進むことを余儀なくされる。あっち、こっちと方向違いにしっかりと生き延びたキビ、みんな真直ぐに伸びてくれたら、どんなに刈り取りが楽になることやら。

作業の合間に、茎を口に入れて噛んでみる。ほんのりとした甘さで疲れが癒される。製糖所が決めた搬入日に間に合わせないといけない。また鎌を取って、葉っぱと格闘する。

搬入の後、製糖所から連絡あり。「おめでとう、おたくの糖度は14.7（普通は12-13）です。」キビの真価は、どの方向に伸びたかではない、その糖度にこそある。

（滝口 直子）

自分に出会う 一人間にとって一番大事なこと

学長 お がわ いち じょう 小川 一 乗 (教授・仏教学)

新入生の皆さん、本学の学生となられたことを心より歓迎いたします。桜の花が咲き乱れている校門を通り、入学式に臨んだ感動は如何ですか。とにかく嬉しいという純真の高ぶりの中で、新たに始まる大学生活に様々な期待を抱いていることでしょう。これからの未知の環境に期待しつつ、新たな出会いに向けて胸を膨らませていることでしょう。自分が学ぼうとしている学問との出会い、先生との出会い、友人との出会いなど、様々な出会いが待っているからです。そして、これら様々な出会いこそ、これからの大学生活にとってなくてはならない大切なことなのです。

ところで、本学の初代学長の清沢満之先生は「自己とは何ぞや。これ人生の根本的問題なり」と、自己とは何かと問うことこそが、人生における根本的な問題であると、私たちに問いかけています。言い換えれば、人間にとって最も大事なことは何かというならば、

自分に出会うことであると。これは一体どういうことでしょうか。この問いへの応答については、いまは差し控えます。本学でのこれからの学びを通して、「自分に出会う」ということの意味を考えて頂けたらと願っています。ここでは一つのヒントを提示しておくに止めます。

すでに周知のように、アメリカで同時多発テロ事件が勃発して一年半が過ぎました。それ以後、アメリカを中心としてテロ撲滅ということが盛んに叫ばれていますが、そこでは、善は善、悪は悪と分断する思考パターンが当然のようにまかり通っています。そのことに何となく疑問を感じている人も多いのではないかと思います。このような、AはAであり、非Aは非Aであるという単純な構図を作り出しているのは現代の合理主義に基因しているのではないのでしょうか。それに対して、仏教で説かれる「縁起の道理」では、この道理を清沢先生は「万物一体の真理」と言い換えています。Aな

くして非Aはなく、非AなくしてAはなく、Aは非Aとなり、非AはAとなるという、Aと非Aとの相互連関が説かれます。この縁起の道理によって、善はあくまでも善であり、悪はあくまでも悪であるという分断ではなく、善なくして悪なく、悪なくして善はないという、善と悪との相互関係において、時として、善は悪ともなり、悪は善ともなることを説いているのが仏教です。何故なら、善は傲慢と表裏一体であり、悪は慚愧と表裏一体であるからです。

これを親子関係という具体的な例えで説明して見ますと、分かりやすいと思います。確かに私たちは、親はあくまでも親であり、子はあくまでも子であると分断しようとしています。何故ならば、それこそがお互いの人格を尊重した親子関係であると現代人は思い込んでいるからです。しかし、そこに無理はないのでしょうか。親と子の関係は決して分断されているものではないからです。親なくして



小川一乗学長

子なく、子なくして親なく、親は子によって親となり、子は親によって子となるという関係性においてこそ、親は親となり、子は子となっているのではないのでしょうか。決して、親は子と無関係に先に存在しているわけでもなく、子は親の後に存在しているわけでもありません。もし親が子の生まれる以前に存在するならば、子のいない親がいることとなります。また、子が親の後に存在するならば、未だ存在しない親から子が生まれることとなります。相互関係によって親となり子となっているのです。親から子が生まれると同時に、子から親が生まれるのです。お互いがお互いの因となり果となっているわけです。言われてみれば、至極当然の相互関係であるのに、親と子を切り離して分断して、孤立していくこれからの自分の生き方が見えてきませんか。それとも、これまでの自分が少し見えてきましたか。自分に出会えそうですか。

善と悪との関係も同じです。絶対的な善もなければ悪もありません。お互いに自らを善とし相手を悪と見なしているだけです。お互いに自らを悪と見なし、相手を善と見なすことができないのが私たちです。私たちは常に自分は正しくて相手は正しくないと考えます。しかし、もしかしたら自分の方が正しくないのではなからうかと、悪を慚愧して悪を越えるだけでなく、善を慚愧して善を越えることを教えてくれているのが仏教です。少し難しいでしょうか。善と悪との分断においては「善を慚愧する」という思考は理解不能かも知れません。皆さんはどうでしょうか。

これからの本学での学びの中で、自分に出会うとはどういうことかと問い続けて行くなれば、私を私たらしめている大きな世界への眼差しを持つことができるようになるでしょう。そして、必ずや自分に出会うことになるでしょう。

C O N T E N T S

- p. 2... 新入生の諸君を迎えて
- p. 4... 谷大の君たちへ
- 新しい私との出会い -
- p. 9... CAMPUS-TOPICS
- p.19... 国際交流トピックス
- p.21... Keiji Ban
- p.25... 学生相談室から
- p.26... 谷大エリア散策
- p.27... 写真でふりかえる
大谷大学今昔
- p.28... TANIDAI FRONT
- p.30... 2003(平成15)年度
入学試験結果
- p.31... 出版物紹介
- p.32... 研究室だより
学会だより
- p.33... 大谷中学校・高等学校
九州大谷短期大学からの
お知らせ
- p.34... 教員研究室一覧表
- p.35... 2003年度(平成15年度)
学年暦(改訂版)
- p.36... SQUARE

表紙のことは

キャンパスのあちこちで
笑い声がきこえる。
冬の長い静寂を破って
今年も訪れたこの季節。

ほんのりと淡い桜が
新しい出会いを予感させる。
- クラスメイト、
クラブ・アルバイト・・・

それぞれの春が始まろうとしている。

冬扇

詳しくは「夏炉冬扇」という。夏の炉や冬の扇のように役にたためことの意味に用いる。ここでは役にたつたない次元をこえて一筋の道に生きる精神をあらわす。

谷大の君たちへ 新しい私との出会い

水を得た魚…。どんな水が良いかは人それぞれ。それを他人は指し示すことができません。当の本人もその水に入って、初めて妙に生き活きてきた自分に気付くわけだから、まずは試行錯誤の経験を重ねるしかありません。時間のかかる話です。しかし、ここで時間をお金に換算してしまつては、長い人生、結局、損。大事なものは、失敗も許される若さの特権を行使できる今、自分に合う水と出会うための旅を歩むこと。さまざまな人と出会い、さまざまな自分と出会う旅。以下は先輩や同輩の旅のノートです。



5年目のタイで

藤田 直子

初めてバンコクのドンムアン国際空港に降り立ったのは、大学2年生の春だった。空調の効いた空港から一歩外へ出た瞬間、むっとした熱気と共に何とも言えないタイの独特の匂いに訳もなく感動したのを覚えている。この旅行でタイに強く興味を持ったことがきっかけとなり、大学院の文化人類学分野でタイ農村住民の生活様式について研究を始めた。以来、研究調査のため年に1、2回、タイ東北部のノンクン村へ通う生活を続けている。

初めて村を訪れた時、言葉はほとんど分からなかった。どこで何をすれば良いのか全く見当がつかないでいた時、テーンさんという女性と出会った。テーンさんの次女ナーンには、耳が聞こえず話すことも出来ない7歳の娘がいる。哺乳瓶でミルクを飲む程度の食事しか出来ず、体は細く歩くことも

ほとんど出来ない。いつも明るく愚痴も言わないナーンがどんな思いで子育てをしているのか気になっていたが、言葉の壁もあってなかなか尋ねる事が出来ないまま月日が過ぎていった。

私は現在、タイ語習得と研究調査のためタイ東北部の都市コーケン市に滞在している。先日は新年の挨拶をしに久しぶりにノンクン村を訪れた。私はいつものように高床住居の床下で縁台に座りながら、ナーンがむずかる7歳の娘にミルクを飲ませるのを見ていた。ふとナーンが私に向かって「日本にも障害を持つ子供はいらる？」と尋ねた。私は戸惑いながらも「いるわよ。子育ては大変？」と問い返した。すると彼女は「とっても大変。何を言っても分かってくれないから、どうしたら良いのかわからない」と初めて自分の気持ちを話してくれたのである。

いつも明るく笑っている彼女の初めての本音、そして私が今までずっと尋ねる事が出来なかった本音だった。

素朴な感動が持つ意味を考え感じ続ける事は、大切であると同時に難しいことでもある。タイに滞在するようになりふと気付くと、残念なことであるが、冒頭で述べたタイの独特の匂いというものを感じなくなっていた。しかしその代わりに、タイ語を話しタイの人の中で生活することによって、私はタイの文化や生活をより詳しく理解することが出来るようになった。タイの研究に携わって5年目にして、ようやくタイとタイの人たちに少し近付けた気がする。そして同時に、ここからが本当の意味でのタイ研究の始まりである。

（ふじた なおこ
博士後期課程 第3学年）



自画像

「クリエイターを目指して」

森本 基弘

私は小学校のころから絵を描くのが好きで、中学、高校と授業中だろうが休み時間だろうが、構わず紙に向かう学生だった。夢は「何でもいから絵を描く仕事に就くこと」で、今思えば何とも世の中を甘く見ていたものである。しかし美大に行き本腰を入れて勉強するわけでもなく、CG（コンピュータ・グラフィック）という未知の領域に触れてみたいという理由で、名誉ある人文情報学科の第一期生になったのだが、いざ授業を受けてみると、CGには一切触れず、選択を誤ったかと後悔した。

そんな思いを引きずったまま第2学年の後期を迎えたとき、携帯端末のソフト開発のために、プロのデザイナーの方が講師として教えに来られた。授業の後、雑談をしている時に、「絵を描いています」と言った事からキャラクターデザインのアルバイトを依頼さ

れ、オフィスまで伺うことになったのだが、それまで仕事で絵を描いたことなど一度もなく、四苦八苦して生み出したキャラクターたちが「ダメ」の一言で片付けられていく... 人生で初めてウツになった時だった。仕事はイヌを描くことであり、あくまで「キャラクターをつくる」ことなのでデフォルメするのだが、先生から資料として見せていただくものは、どれも一度は目にした事のあるゲームのキャラクターだった。それらを見ているうちに「普段しっかりモノを見ていない」ことに気付いてしまった。絵を描く人間は、頭の中にストックがあるから実物を見なくても描くことができる。このようなストックが私の中には圧倒的に不足していた。何せ、モノを見ていなければ描けないのだから。それを今まで怠っていたのだから、絵描きにとっては致命的なことである。今まで多数のことを

教わってきたが、このことが一番印象に残っていて、またこれ以上のものはないと思う。

他にもCGの技術においても指導を受け、その甲斐あってか先日開かれた、これまた授業の一環である「Global Peace 学生たちが考える37の視点」と銘打った、学生が授業で作った作品の展覧会で優秀賞を頂くことができた。

人間関係において、出会いや人付き合いということは、自分に何かしら有意義なものをもたらしてくれるものであると思う。私の場合、昔あきらめた夢にもう一度チャレンジしようと思わせてくれる人に出会えたのだ。このような予期せぬ形ではあったが、新しい出会いはどこにあるかわからない。しかし何かのきっかけが自分という存在に、さらに磨きをかけるものになるだろう。

（ もりもと もとひろ
人文情報学科 第4学年 ）



「新しい私との出会い」について ～ 遠回りして見つけたモノ～

高島 泉

私は他大学を卒業後、大谷大学の幼児教育科に入学した。前の大学では幼児教育とは全く違う分野を学んでいたのだが、その分野を職業にするのは何か違うなと感じていた。自分のしたい仕事はなんだろうと考えていると、子どもと関わる仕事をしている自分の姿が

浮かんできた。そして、私は幼児教育の道に進むことにした。

私が子どもに関わる仕事に就きたいと思ったのは、現在も現役の保育士である母の影響が強い。母はとても楽しそうに仕事をしているように見えた。母の友人である保育士の人たちも魅力的な人がた

くさんいた。私もその仲間に入りたいと思ったのが幼児教育に進むことになった最も大きな理由だ。

幼児教育科に在籍している人たちは、当然といえば当然だが、本当に子どもが好きで入学してきた人たちがたくさんいた。子どものことを一番に考え、子どもが楽し

んでくれるにはどうしたらいいのかと一生懸命になっている友人達の姿に、保育という仕事は楽しそうという安易な考えで入学した自分が恥ずかしくなるときもあった。

私が本当に保育の仕事に就きたいと心から思ったのは、保育実習に行き子ども達と触れ合ったときである。新しいことを発見する喜びがそこにはたくさんたくさんあった。私には食べなれた食パンを「おいしいなあ。」と本当に幸せそうな表情で食べている子ども

の顔やだんご虫を真剣な表情で見つめている様子は、私が忘れてしまったものをたくさん再発見させてくれたし、それはとても楽しいことだった。

今振り返ると楽しそうというイメージだけで幼児教育科に入学した私だったが、同じ道を目指す友人達に刺激を受け、保育実習で子ども達に出会い、真剣に保育について考えるようになり、今では子どもと関わって生きていきたいとはっきり思えるようになった。

私は前の大学で自分のしたいこ

とに気づき、今の学校で同じ目的をもった仲間達と一緒に学び、この春からようやく保育士としての第一歩を踏み出すことになった。周囲の人には遠回りに映るかもしれないが、本当にやりたいことに会うために必要な時間だったと思う。

新入生の皆さんもたくさんの人に出会い、焦らずゆっくりやりたいことを見つけて欲しいと思う。

(たかしま いずみ)
幼児教育科 2003年3月卒業



新しい私との出会い —ターニングポイント—

山田 恵文

大学1回生の時、「教育原理」という授業で、某先生がしきりに「人生にはターニングポイントがある。それは自己を問う姿勢から見出せるものだ」と話されていたことをよく覚えている。ターニングポイント、つまり人生の方向を決定づける転換点がある人には必ずある。特に自由な時間と、人との出会いに満ちあふれた大学生の時期には、ターニングポイントを意識すべきである、というような主旨の授業であったかと思う。その授業を受けて以来、私は自分の生き方にまじめに向き合うようになった。そして4年間という与えられた時間の中で、転換点なるものがどのように起こりうるのだろうか、劇的な大事件に遭遇するのだろうか、それとも劇的な人との出会いがあるのだろうか、とわくわくしながら待ち構えたものである。ところが、4年間を終えて、とうとう私のイメージするようなドラマチックな出来事は起こらな

かった。

その後、進学したものの私は考え続けた。「一体、私の転換点ってどこにあるのだろうか?」「いつ自分の人生を方向付けるような出会いがあるのだろうか?」などと考えつつ、勉強を続けた。しかし、待てど暮らせど「これだっ!」という出来事は、自分の身に一向に起こらない。1年、また1年と時が過ぎ、とうとう14年も経ってしまった。本当に人には、みんな転換点なるものなどあるのかと、先生に問いただしてみたくさななった。そうして私は昨年より教員としての人生を歩み始めていた。・・・

あれっ? そう言えば、何で教員になっているのだろうか??? 教員は私のなりたくない職業のベスト3にランクされているはずだった。ところが、勉強を続け、それがいつしか研究に変わり、取り組んでいった結果が今の私である。その学びの姿勢をうながし続けた

もの、それが「自己を見つめ続けなさい」という先生の授業での一言であった。ああ、そうか! あの授業との出会いが、私の人生における一つの転換点であったのだ。「自己を見つめる姿勢」、これが私の学びの姿勢を形作り、考える力を与えてくれた。そして今この姿勢の大切さを学生に伝えたいと思って教壇に立っている。新たな自分は突然やってくるものではなく、日々の営みの中で培われていくものであったのだ。けれども新たな自分になっていくための決定的な出会い、ターニングポイントと言える出来事がなければ何も始まらない。私にとってあの授業との出会いが新たな自分への出発点であったのだ。みんなはこの大学で一体どんな出会いを遂げ、成長していくのであろうか。それを見届けていくことに、今、教員である私の楽しみがある。

(やまだ けいぶん)
助手 真宗学



夢に向かっての一步

西川 佳央里

幼い頃から図書館が好きだった私は、将来司書になれたらいいなという夢をずっと心の中に抱いていた。そしてその夢を少しでも現実に近づけたいと思った高校時代に、司書課程のある大学に進学しようということを心に決め、この大学を選んだ。以前から司書という職業は求人数が少なく、必ずしも就職できる保証がないということは知っていた。しかしそれを承知の上で私はあえて司書という職業を目指すことにした。

そして一年という時が過ぎ、まもなく二年生になるという時期、私は就職活動を始めた。その頃には入学当時の「司書になりたい」という気持ちは心の中から消え去っていたかにも思えたが、心の片隅にはその思いが引っかかっていた。こうした思いと戦いながらもその思いとは裏腹に事務職希望で就職活動をしていた。そして何社

も企業の試験を受けていくうちに、もしかしたら私には事務職は向かないのではないだろうかという思いが胸をよぎり始めたのである。しかしその思いを抱きながらもまだ事務職希望で就職活動を進めていた。だがある時、それにも限界がやってきたのである。そしてこのまま事務職で就職を希望して、それが現実のものとなったとしてもそれは自分には向かないのではないかと思い始めた九月下旬、突然ゼミの先生に就職の事を聞かれ、私は今までのことをすべて先生に話した。先生は言われた。「自分が本当に司書になりたいのなら、それを諦めないことが大切だと思うよ」。私は先生のその言葉を聞き、大学入学当時の夢をここで諦めるのはもったいないという気持ちになり、もう一度この夢にかけてみることにしたのである。

また、そうした状況の中で、自分の夢を諦めずにがんばっている友人達に刺激され、自分自身を高めることができたのも今振り返るといい思い出である。

そして現在、私は司書になるという夢を実現できつつある段階までくることができた。こうした段階までくることができたのは共に夢に向かってがんばっている仲間と励まし合い、時には意見を交換することができたこともあるが、それ以上に力を貸して下さったり、時には相談にのっていただいた先生のお蔭だというふうにも感じている。また今までの経験や人との出会いが新たな夢に向かっての一步なんだと思いながら、司書としてがんばっていききたい。

(にしかわ かおり
文化学科 2003年3月卒業)



こんなもんかなあ

橋田 尊光

私の大学に入ってから数年間は、それほど前のことでもないにもかかわらず、あまり記憶がない。印象に残った「思い出」となると、絶望的である。いったい何をしていただろう、というのが正直なところだ。

けれども、「何かしなければ」というある種の強迫観念は、いつもはたらいていたように思う。そ

れだけ、何もしない時間を過ごすとういことに、相当の不安を感じていたのかもしれない。

そういう不安はずっと持ち続けていくことになるのだが、その不安があったからだろうか、ある夏の日にちょっとした行動に出た。それは、親鸞が島流しでたどり着いた地である、新潟の「居多ヶ浜」という所に行ってみることにした

のである。居多ヶ浜に私は、冬は「雪深い新潟」というイメージもあって、親鸞の苦勞を象徴する所という思いを持っていた。「行けばきっと何かある、ひょっとしたら自分は変わることができるかも」と、そういうことを思いながら、新潟までの電車の中では、かなり感傷的な気分になっていたと思う。

直江津という駅でおりて、そこから居多ヶ浜まで歩いている間、俄然気分は盛り上がってくる。それこそ「新しい自分を発見するぞ〜！」ぐらいの勢いだ。

やっとこさ居多ヶ浜にたどり着いたのだけれども、とりあえず驚いた。浜には色とりどりのビーチパラソルが咲き乱れていたのである。夏場は海水浴場として利用さ

れているのだ。さみしげな砂浜を想像していたので、全く感じが違った。

それにひるむことなく、砂浜を歩いてみることにした。まわりのみんなは海水浴に来ているのだから、当然楽しげな様子である。そこを一人で歩きながら、脳裏には孤独とか無常とか、そういう種類の言葉が浮かんで消え、浮かん

では消えし、なんとなく熱が冷めたような気分だった。

予想していたこととは全然違う事態だったけれども、特に悪い気はしなかった。「まあ、こんなもんかなあ」と感じて、しばらくしてから帰った。

（はしだ たかみつ
任期制助手 真宗学）



私にとっての大学生活

卯川 元麻

私は数年の社会人経験の後に大学に入ったが、大谷大学に入った時点で今までの社会人としての傾向や方向性を全て白紙に戻して全てをやり直すつもりであった。私は社会的な意味での自分の進むべき道も、やりたいことも何も無かった。ただ哲学を学びたいという気持ちだけで大学に来たのである。

大きな期待を抱いて入った大学で一番驚いたのは自分の持つ「あり余る程の時間」であった。常にタイムテーブルの型に押し込まれて何かに追われ続ける生活から一変して時間の全てが自分の決定権に委ねられていた。この経験は余りにも新鮮であり、入学当初の哲学一辺倒の気持ちはどこへやら、入学から半年後には講義が終われば友人と遊び歩き、授業のない日は趣味にアルバイトに没頭し、誰にも文句を言われぬのを良い事に遅れて来た典型的な大学生活を満喫していたのである。

当初ほどの盲目的な情熱はなくなったものの、やはり講義は楽しく、大学に来て初めて「学ぶ楽しさ」を感じた。授業の内容を自分の問題として捉えてみれば、どの授業ものっぴきならぬ重要な問題のように思え、そしてまた友

人達、先生方との出会いもあまりにも大きなものであった。ある時は私を現実を引き戻したり弾き飛ばしたり、またある時は私の存在を全肯定したり、全否定したり。非現実的なレベルでの人との関わり方というものは、良い意味で今までに無かった種類の人との付き合い方であった。

「金が最も価値をもつのは稀有であり、実用的でなく、その輝きが柔和であるからだ」とドイツの哲学者であるニーチェは言っている。私にとっての大学生活はまさにこのようなものであった。人間の一生の中で稀有であろう大学生活の中で私の選んだ哲学という学問は社会や生活のレベルで直接的に役に立つものではないが、大学に入る際に見失っていた私の内的な方向性を指示してくれたものであり、折につれて何かしらの指標になってくれているのである。また友人達との馬鹿騒ぎ、先生との話、学校の雰囲気というものは常に心の中で優しく輝いている。

現在の私は入学前とは正反対とも言える程、大学に入るまでは思いもよらなかった社会的な方向に進みだそうとしている。今の仕事も大学で直接学んだわけではないが、大学にいることで得たものに

よって就いた職業だと思う。それは大学生活で費やした自分の持つ時間であったり、大学生活で得た考え方であったり、方向性であったり、人との繋がりであったりする。私は社会で直接役に立つものではないが、一生持ちつづけ、人間として生きていく上で大きな価値をもつものをこの大谷大学で得たのである。

大学在学中にそういったものが見つかるのは幸せなことであると思うが、入学してきた新入生の皆様にアドバイスするとすれば、ふんだんにある時間を使い切れということである。資格試験に執念を燃やすも、学業に打ち込むもよし。また友人と遊びまわるも、合コンに命をかけるも大いによし。一生のうちで殆どない自由な時間であるから、やりたくないことは一切拒否して、やりたいことだけをやっていいと思う。その中で自分の中の一番強い方向性が見出されてくるのではないだろうか。新入生諸君の大学生活の充実と、一生の財産になりうるであろうものが見つかることを切に願い、稿の終わりとしていたい。

（うかわ もとあさ
哲学科 2001年3月卒業）

人 事

退職・解任

定年退職

[教育職員]

大桑 齊(教授・文学部)

礪波 護(教授・文学部)

長谷 正當(教授・文学部)

[事務職員]

渡邊 顯信(総務部)

[技術職員]

山脇 英昭

契約期間満了による退職

[事務系嘱託]

中田 一代(総務部)

和田 泰子(総務部)

岡村 亮子(教務部)

宮原 美幸(教務部)

本多 美和(学生支援部)

伊藤 千晶(教育研究支援部)

勝間田晋子(教育研究支援部)

佐野嘉奈子(教育研究支援部)

清水 千景(教育研究支援部)

寺原 友子(入学センター)

[任期制助手]

江上 琢成

小川 直人

北城 伸子

坂井 祐円

藤枝 真

[寮監]

須藤 三枝(自灯学寮)

三浦 央(貫練学寮)

2003年3月31日付(各通)

依願退職

[現業職員]

高西 昭三

2003年3月31日付

解任

[学寮長]

木越 康(自灯学寮兼貫練学寮長)

[図書館長]

木場 明志

[真宗総合研究所長]

寺林 脩

[人権センター長]

泉 惠機

2003年3月31日付(各通)

新規採用・任命

[教育職員]

小野 蓮明(特別任用教授・文学部)

礪波 護(特別任用教授・文学部)

長谷 正當(特別任用教授・文学部)

皇 紀夫(教授・文学部)

安井 喜行(助教授・文学部)

井上 尚実(専任講師・文学部)

平野 寿則(専任講師・文学部)

水島 見一(専任講師・文学部)

三宅伸一郎(専任講師・文学部)

杉山 正治(任期制講師・文学部)

[事務職員]

内田 美央(書記補・総務部)

加藤 淳(書記補・企画室)

加藤 直子(書記補・教育研究支援部)

重松 康希(書記・学生支援部)

中島 晶子(書記補・教務部)

[技術職員]

辻 敏明

林 光美

[事務系嘱託]

井上 朋子(総務部)

児玉 成子(企画室)

小南 香子(教務部)

狭山 光恵(総務部)

宅和 美枝(教育研究支援部)

谷 佳苗(校友センター)

通事 祐子(教育研究支援部)

外村 梨佐(教務部)

中山 佳美(教育研究支援部)

西田 洋美(教育研究支援部)

山田 理恵(教務部)

[任期制助手]

安藤 弥

片岡 宣行

仁木 夏実

藤谷 昌紀

本明 義樹

森 芳周

[寮監]

古谷 伸子(自灯学寮)

藤間 哲祐(貫練学寮)

[校医]

戸城えりこ

[学寮長]

一色 順心(自灯学寮兼貫練学寮長)

[図書館長]

大内 文雄

[真宗総合研究所長]

兵藤 一夫

[博物館長]

木場 明志

[人権センター長]

泉 惠機

2003年4月1日付(各通)

昇 格

[教授]

佐賀枝夏文(文学部)

藤本 芳則(短期大学部)

[助教授]

赤瀬 知子(短期大学部)

山野 俊郎(文学部)

2003年4月1日付(各通)

新任教職員の紹介

略歴 専門分野(所属)



特別任用教授
(文学部)
小野 蓮明
(おの れんみょう)

1960年3月大谷大学文学部真宗学科卒業。1969年3月大谷大学大学院文学研究科博士課程(真宗学専攻)満期退学。1998年博士(文学)(大谷大学)。前大谷大学教授。真宗学



特別任用教授
(文学部)
礪波 護
(となみ まもる)

1960年3月京都大学文学部史学科(東洋史学専攻)卒業。1965年3月京都大学大学院文学研究科(東洋史学専攻)博士課程単位取得退学。1987年文学博士(京都大学)。元京都大学教授。元京都大学文学部長兼文学研究科長。前大谷大学教授。東洋史学



特別任用教授
(文学部)
長谷 正當
(はせ しょうどう)

1960年3月京都大学文学部哲学科(宗教学専攻)卒業。1965年3月京都大学大学院文学研究科(宗教学専攻)博士課程単位取得退学。元京都大学教授。前大谷大学教授。宗教学



教授
(文学部)
皇 紀夫
(すめらぎ のりお)

1963年3月京都大学教育学部(教育学専攻)卒業。1968年3月京都大学大学院教育学研究科博士課程教育人間学専攻中途退学。前京都大学教授。臨床教育学



助教授
(文学部)
安井 喜行
(やすい よしゆき)

1972年3月同志社大学文学部社会学科(産業関係学専攻)卒業。1977年3月同志社大学大学院文学研究科修士課程(社会福祉学専攻)修了。前愛知学泉大学助教授。前皇學館大學社会福祉学部非常勤講師。社会福祉学



専任講師
(文学部)
井上 尚実
(いのうえ たかみ)

1984年3月京都大学文学部哲学科(仏教学専攻)卒業。1991年3月大谷大学大学院文学研究科修士課程(仏教学専攻)終了。1995年12月カリフォルニア大学サンタバーバラ校大学院宗教学科博士課程論文提出資格取得。前真宗大谷派北米開教区囑託。前大谷大学非常勤講師。仏教学・真宗学・宗教学



専任講師
(文学部)
平野 寿則
(ひらの としのり)

1990年3月大谷大学文学部史学科(国史学分野)卒業。1997年3月大谷大学大学院文学研究科博士後期課程(仏教文化専攻)満期退学。2001年博士(文学)(大谷大学)。前大谷大学非常勤講師。前近畿大学非常勤講師。歴史学(日本近代史・仏教史)



専任講師
(文学部)
水島 見一
(みずしま けんいち)

1973年3月大谷大学文学部仏教学科(仏教学専攻)卒業。1978年3月大谷大学大学院文学研究科博士後期課程(仏教学専攻)満期退学。前大谷中・高等学校副校長。前大谷大学非常勤講師。真宗学



専任講師
(文学部)
三宅 伸一郎
(みやけ しんいちろう)

1992年3月大谷大学文学部史学科(日本仏教史学分野)卒業。1999年3月大谷大学大学院文学研究科博士後期課程(仏教文化学専攻)満期退学。前大谷大学非常勤講師。前大谷大学真宗総合研究所西藏語文献研究班囑託研究員。前富山大学非常勤講師。チベット学



**任期制講師
（文学部）**
杉山 正治
(すぎやま せいじ)

1992年3月立命館大学工学部機械工学科卒業。2000年3月立命館大学大学院理工学研究科（総合理工学専攻）博士課程後期課程修了。2000年博士（工学）（立命館大学）。前大谷大学非常勤講師。
機械工学・情報システム学



**事務職員
（書記補）**
内田 美央
(うちだ みお)

2003年3月京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科卒業。
総務部



**事務職員
（書記補）**
加藤 淳
(かとう あつし)

2001年3月大谷大学文学部真宗学科卒業。2003年3月大谷大学大学院文学研究科修士課程（真宗学専攻）修了。
企画室



**事務職員
（書記補）**
加藤 直子
(かとう なおこ)

1998年3月大谷大学文学部史学科卒業。2003年3月大谷大学大学院文学研究科博士後期課程（仏教文化専攻）満期退学。
教育研究支援部



**事務職員
（書記）**
重松 康希
(しげまつ やすき)

1993年3月京都市立芸術大学美術学部美術学科卒業。1995年3月京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。前株式会社京都科学勤務。
学生支援部



**事務職員
（書記補）**
中島 晶子
(なかじま あきこ)

2003年3月同志社大学文学部英文学科卒業。
教務部



技術職員
辻 敏明
(つじ としあき)

1970年3月京都市立西京商業高校卒業。前協栄ビル管理株式会社勤務。



技術職員
林 光美
(はやし みつよし)

1966年3月京都市立洛陽工業高等学校電気科卒業。前株式会社ナショナルメンテナンス勤務。



任期制助手
安藤 弥
(あんどう わたる)

1998年3月名古屋大学文学部史学科卒業。2003年3月大谷大学大学院文学研究科博士後期課程（仏教文化専攻）満期退学。前大谷大学真宗総合研究所研究補助員。
日本史学



任期制助手
片岡 宜行
(かたあか よしゆき)

1995年3月京都大学文学部文学科卒業。2000年3月京都大学大学院文学研究科博士後期課程（ドイツ語学ドイツ文学専攻）研究指導認定退学。2000年博士（文学）（京都大学）。前京都大学研修員。
ドイツ語学



任期制助手
仁木 夏実
(にき なつみ)

1998年3月大阪大学文学部文学科卒業。2003年3月大阪大学大学院文学研究科博士後期課程（文化表現論専攻）満期退学。前甲南女子高等学校非常勤講師。
国文学



任期制助手
藤谷 昌紀
(ふじたに まさのり)

1989年3月大谷大学文学部仏教学科卒業。2003年3月大谷大学大学院文学研究科博士後期課程（仏教学専攻）満期退学。
仏教学



任期制助手
本明 義樹
(もとあき よしき)

1994年3月京都教育大学教育学部数学科卒業。2003年3月大谷大学大学院文学研究科博士後期課程（真宗学専攻）満期退学。前大谷大学真宗総合研究所研究補助員。
真宗学



任期制助手
森 芳周
(もり よしちか)

1998年3月大阪大学文学部哲学科卒業。2003年3月大阪大学大学院文学研究科博士後期課程（文化形態論専攻）満期退学。前園田女子学園短期大学部非常勤講師。
倫理学・臨床哲学



事務系嘱託
(総務部)
井上 朋子
(いのうえ ともこ)



事務系嘱託
(企画室)
児玉 成子
(こだま しげこ)



事務系嘱託
(教務部)
小南 香子
(こみなみ きょうこ)



事務系嘱託
(総務部)
狭山 光恵
(さやま みつゑ)



事務系嘱託
(教育研究支援部)
宅和 美枝
(たくわ みえ)



事務系嘱託
(校友センター)
谷 佳苗
(たに かなえ)



事務系嘱託
(教育研究支援部)
通事 祐子
(とうじ ゆうこ)



事務系嘱託
(教務部)
外村 梨佐
(とのむら りさ)



事務系嘱託
(教育研究支援部)
中山 佳美
(なかやま よしみ)



事務系嘱託
(教育研究支援部)
西田 洋美
(にしだ ひろみ)



事務系嘱託
(教務部)
山田 理恵
(やまだ りえ)

2003年度 学科主任一覽

[文学部]

(任期：2003年4月1日～2004年3月31日)

真宗学科 神戸 和磨
仏教学科 木村 宣彰
哲学科 鈴木 幹雄
社会学科 松村 尚子
史学科 草野 顕之
文学科 友田 孝興
国際文化学科 若槻 俊秀
人情報学科 宮下 晴輝

[短期大学部]

(任期：2003年4月1日～2005年3月31日)

仏教科 一色 順心
文化学科 築山 修道
幼児教育科 藤本 芳則

人文情報学科学生が全国学会で発表

去る2002年11月2～4日、日本教育工学会第18回全国大会が新潟県の長岡技術科学大学で開催され、人文情報学科の宮脇裕さん、和田圭二さん、櫛村暢彦さん、水田庄一さん、森山馨一朗さんが「パッド型携帯端末を利用したダイナミックな総合学習分散協調システムの開発」という研究発表を行いました。

一昨年度以来、人文情報学科では(株)三洋電機の協力を得て、パッド型携帯端末「スクリオ」のコンテンツ開発という産学協同研究授業を進めており、今回は、小学校の「総合的学習の時間」に活用できる教育目的のコンテンツを開発しました。これは、小学生が

リヴァーウォーク(川歩き)をしながら目にする動植物や環境汚染といった実体験、つまり「体験的知識」を、その場で携帯端末のデータベースを検索することによって検証させ、「抽象的知識」として獲得させることを目的としたものです。

個々の携帯端末は無線ネットワークで結ばれているため、川の上



代表として発表した宮脇 裕さん

流と下流で得られた情報を交換・共有することもできます。教室での「抽象的知識」と野外での「体験的知識」の双方を同時に習得できるコンテンツとして、教育関係者から大きな評価の声があがりました。

産学協同研究授業は、今年度も「人文情報演習12/13」として継続されます。(松川節)



日本教育工学会での発表風景

グローバル・ピース～人文情報学科・展示とプレゼンテーション～

人文情報学科学生による課題制作ポスター展が、12月18日～2月12日まで響流館1階ギャラリーで開催されました。人文情報学科の演習「パソコン画像処理ソフトを利用したヴィジュアルイゼーション(視覚化)」の課題として、37人の学生が「グローバル・ピース(地球規模の平和)」をテーマにポスターを制作したものです。内容は、「ゴミと戦争」、「色のない世界」、「穢れ」、「ヒカリ」など、学生たちが平和に託す様々な熱きメッセージになりました。

1年間にわたる演習では、マルチメディア・クリエイターとして第一線で活躍中の伴宙先生を特別講

師としてお迎えし、色彩理論を始めとして、視覚化を行っていく上での企画力・戦略性・表現力を現場で通用するレベルに引き上げることを目標に懇切丁寧に指導していただきました。

展示期間中の1月15日には響流館三階のメディアホールにてプレゼンテーションが行われ、学生一人ひとりが自らの作品に込めたメ



メディアホールでのプレゼンテーション

ッセージを披露しました。審査の結果、以下の3人：

最優秀賞：上田剛さん

「Biological Balance」

優秀賞：森本基弘さん

「地球の奏でる祈り」

学科主任賞：森下和真さん

「四角い枠のある風景」

がそれぞれ入賞しました。

(松川節)



ギャラリーでの展示風景

藤田昭彦教授 全国保育士養成協議会より表彰される

2002年12月21日に開催された全国保育士養成協議会理事会において、本学の藤田昭彦教授が、時代に即したよりよい保育者の養成に永年努めてきた功績が認められ、「平成14年度会員校教職員表彰」の授与が決定されました。藤田教授は、本学において心理学の授業科目を担当するとともに、

幼児教育科の教育実習指導などに深く関わり、保育現場の要請に応えられる学科の育成に尽力されました。また、保育士養成協議会近畿ブロックの委員を勤めるなど、保育者の質的向上と斯界の発展に貢献したことにより、今回の表彰となったものです。（企画室）



藤田昭彦教授

5名の方が博士（文学）の学位を取得



授与式風景

このたび、次の5名の方が、学位論文を提出され、博士（文学）の学位を取得されました。

授与式は、2003年3月19日（水）本学にて行われました。

今村仁司 東京経済大学教授

「清沢満之と哲学」

豊島修 本学教授

「修験道史研究と庶民信仰史論」

根井浄 神戸常盤短期大学教授
「補陀落渡海史」

野村卓美 東京都立戸山高等学校教諭
「明恵上人の研究」

草野顕之 本学教授

「戦国期本願寺教団史の研究」

（教務部）

課程博士の学位を授与

本学ではこの度、博士後期課程修了者4名に、博士（文学）の学位を授与しました。学位取得者は櫻井智浩（仏教学） 箕浦暁雄

（仏教学） 孔繁志（仏教文化）

陳震（仏教文化）の各氏です。

（教務部）



『文藝春秋』『AERA』誌コラム執筆者紹介

本学は各種の雑誌に様々な広告を掲載しています。そのいずれもが、大学の教育研究の一端を紹介するものとなっており、読者の方々からも好評を得ています。

今年度も『文藝春秋』誌に毎月「生活の中の仏教用語」を『AERA』誌に隔週で「今という時間」コラムを掲載中です。執筆担当の先生方は次のとおりです。（企画室）

生活の中の仏教用語『文藝春秋』

泉 惠機（仏教と人権）

佐々木令信（日本仏教史学）

木村 宣彰（仏教学）

今という時間『AERA』

三木 彰円（真宗学）

芦津 かおり（英米文学）

ディディエ ヴェステル

（フランス語・フランス文化）

一色 順心（仏教学）

豊住 征子（声楽）

蜂屋 良彦

（社会心理学・集団力学）

「学生援護賞」京都クラブ賞受賞

2月14日に、京都ロイヤルホテルにおいて京都ベンチャークラブによる学生援護賞の表彰式が行われました。

京都ベンチャークラブは、障害を持つ青年が生活環境と自己の向上を図り、さらに上級の教育を目指し努力していることに対して、激励と援助を目的として京都クラブ賞を設けています。

今回、文学部第2学年の難波教行さんが難病と闘いながらも勉学に励んでいることを表彰され、京

都クラブ賞を受賞されました。

難波さんは、小学校2年生の時、筋肉が緊張し不随意運動が起こる「ジストニア」を発症しました。しかし、僧侶の父親と同じ道に進みたいと大谷大学に入学しました。入学後は一人暮らしを始め、ときに自炊もするとのこと。

時には、日常生活において友人の手を借りることもありますが、所属している児童教化研究会やクラスでは中心となって活動し、研究に励んでいます。

難波さんは、先ず目標として、大谷派教師資格の取得を行い、そして大学院に進み、さらに多くのことを勉強したいと考えています。これからの難波さんの活躍がますます期待されます。(学生課)



難波教行さん

板野諒子さん、勤労学生表彰を受ける

去る3月6日に京都学生研修会館において勤労学生援助会による勤労学生表彰・奨学金授与式が行



板野諒子さん

われ、文学部第1学年の板野諒子さんが表彰を受けました。勤労学生援助会は働きながら学ぶ学生の支援団体として、昭和41年に設立された団体です。勤労学生の表彰・奨学金給付のほか、短期貸付金の貸付などの諸事業を行っています。

板野さんは、文学部入学時より学費・生活費のすべてを奨学金・

アルバイトでまかなっており、独立して生計を立てています。また、ギター部に所属し、クラブ活動にも熱心に取り組み、さらには学園祭実行委員として学園祭の中心として活躍するなど、学業と課外活動を両立し、充実した学生生活を過ごしています。このたびその努力が評価され表彰されました。

(学生課)

本学出版物のお知らせ

大学が刊行した次の2点は学内書店で販売しています。

インドから、中国・日本に伝えられ、「大乘の至極」として親鸞の浄土真宗に開華した仏教伝播の

道をわかりやすく述べた『仏教伝来』は1,000円。

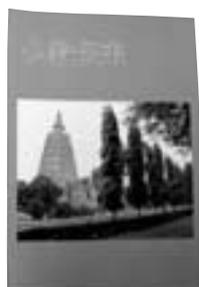
本学の初代学長であった清沢満之の「精神主義」など代表的な文章13編を集めた『我が信念 清沢満之のことば』は500円です。

本年3月第12輯を刊行しましたが、既刊号も含め、ご希望の方には企画室にて差し上げています。

(企画室)



我が信念



仏教伝来

大谷大学では、開学記念式典や、宗祖誕生会・ご命日、報恩講などの行事に際して行われる記念講演の筆録を集め、『伝統と創造』と題して編集・刊行しています。



伝統と創造

学内施設の充実 ~多様なニーズに応えています~

博綜館の改修

響流館へ文学部の一般研究室が移転し、至誠館へ教務部、学生支援部(学生課・進路就職センター)の学生生活支援部門が集約(移転)されたことに伴って、これまで事務室・一般研究室として使用していた博綜館の各部屋(フロアー)につきましても、このたび改修し、使用用途を一新しました。

保健室の拡充



オープンカウンター

昨今の学生の多様なニーズに対応するためには、手狭になっていましたが、このたび博綜館1階北側から旧学生課跡(南側)に移すことにより、これまでよりも広いスペースを確保することが可能となりました。これにより、静養室も充実しています。



救急スペース

学生相談室の拡充

これまで博綜館地下1階にあり、相談室(個室)1室(カウンセラー1名)と待合室といった配置でしたが、保健室同様、学生諸君に快適に利用してもらう為の、十分なスペースが不足していました。このたび旧保健室跡に移転することにより、相談室(個室)2室のスペースが確保でき、カウンセラーの2名体制が可能になりました。また、待合室も拡充され、受付カウンターが設置されました。

人権センターの移転

一号館から旧進路就職センター跡に移転し、南側には人権センター員室・小会議室および相談室が、北側には書籍・資料を配架した人権センター事務・閲覧室が配置されました。閲覧室は、これまで同様、学生諸君は自由に利用できます。



人権センターの相談室

入学センターの移転

これまで博綜館3階にありましたが、入学試験のみならず外国人留学研究生等、幅広い学生の受入を行う観点から、部署名を昨年六月の事務局再編時に「入試センター」から「入学センター」へと変

更しました。これに伴って、高校生をはじめ学外の方々にも訪問していただきやすいように、博綜館1階入口正面に移転しました。



入学センター

これらの移転整備に伴い、事務部門の教育研究支援、学生生活支援、管理運営の大学の三大機能が響流館、至誠館、博綜館・尋源館にそれぞれ集約されたと言えます。

これにより、学生諸君にはこれまで以上にわかりやすく、利用していただきやすくなりました。

学生談話室2の開室

人権センターの博綜館移転に伴い、一号館1階に学生諸君がくつろげるフリースペース「学生談話室2」を開室いたします。

「学生談話室2」は、飲物等の自動販売機を設置し、昼食や休憩の場、友達との語らいの場として学生諸君に自由に活用してもらうため、室内は明るいイメージのロールカーテン、そしてテーブル・イスはもちろんソファを配し、装いも一新いたします。

また、学生会からの要望もあり、室内は全面禁煙となります。

開室時間は午前8時から午後8時となります。

OUNETを上手に使いこなすために

本学では、教育・研究の支援と情報化の推進を目的に大谷大学情報ネットワーク（以下、OUNET）を整備してきました。

学生諸君の日常的な学習、研究にとって、OUNETはなくてはならないものとなっています。

授業でパソコンを利用するだけでなく、授業時間以外には情報処理教室を自由使用することができます。総合研究室と2号館の短期大学部一般研究室にはパソコンが設置され、学生諸君が使用するための環境を整備しています。

このようなネットワーク環境や情報環境をさらに充実させ、活用していくためには、システムとして十分なセキュリティが確保されること、利用者がマナーを守って使用することが必要となります。

マナーをまもって大学の情報環境を利用するために

OUNETをはじめとする本学の情報環境は、学習活動、教育活動、研究活動のために利用することを前提としています。この目的以外の利用は制限または禁止することがあります。

情報コアでは、セキュリティ確保のため、OUNET上のログデータ（いつ・どこで・誰が・何をしたか等）の記録をとり、追跡可能にしています。ルールを守ってOUNETを利用してください。

基本的な注意事項について次に記載しておきます。

【禁止事項】

学習目的・研究目的以外のチャットは禁止しています。

ネットワークゲームは禁止しています。

大学のパソコンへのアプリケーションのインストールはできません。

営利目的の利用、わいせつ画像の閲覧は禁止しています。

印刷については課金していませんが、大量部数の印刷、学習研究活動以外の印刷は制限する場合があります。

【安全対策】

メールだけではなく、さまざまなメディアによってウィルスが持ち込まれる危険があります。自宅のパソコンにもウィルス対策を施してください。

アカウント、パスワードは責任を持って管理してください。

パソコンから離れる時には必ず電源を切ってください。

持ち込みパソコンをOUNETに接続できます

このたび、本学では学生諸君が自分のパソコンを安全にOUNETに接続し、利用することができるネットワーク環境を整備しました。

5月6日から、総合研究室、図書館での持ち込みパソコンの接続サービスを開始します。

なお、接続には手続が必要となります。次の事項を確認して、利用してください。

【利用可能なサービス】

Web閲覧、mail送受信

ホームフォルダへのアクセス

WIN Windows95以降。
Mac OS が必要。

【接続手続】

接続するためには、登録が必要です。総合研究室カウンターで手続をしてください。必要な設定について説明します。

【注意事項】

パソコンによっては、イーサネット接続用カードが必要となります。

利用できるパソコンは、ウィルス対策ソフトがインストールされているものに限定していません。未対策のパソコンは接続できないので、注意してください。

貸出パソコンが充実します

総合研究室で貸出をしている学習研究用パソコンに新しい機種を導入しました。

グラフィック用途にも適した機種や百科事典や辞書等の充実した機種となっています。

図書館内でも利用できるため、総合研究室カウンターに申し込んでください。

事務窓口ホームページ化への取り組み ～「学生向け情報提供システム」4月より本稼働開始～

「学生向け情報提供システム」は、学内の掲示板にてお知らせしている事項・窓口にお問い合わせの多い事項などに即時に対応するためにつくられたシステムです。自宅などのパソコンからインターネットを利用して、大学からの情報を受け取ることができます。

昨年の12月よりテスト運用を開始していたこのシステムは、新たに機能を拡大し、本年4月より本稼働となります。

詳細については、サービス対象者に配布されたチラシを参照してください。



《トップページ》最新の掲示板情報を表示します

サービス内容 科目等履修生・聴講生も利用可能になりました

掲示板

学生生活に必要な情報（授業・試験・奨学金・進路支援・連絡事項など）をカテゴリごとに配信します。

個人掲示板を新たに設置しました。（学生呼出・個人的な連絡事項などをお知らせします）

カテゴリを2階層まで分類し、情報が検索しやすくなりました。

授業情報

休講・補講・教室変更などの情報を時間割形式や一覧形式にて表示します。

時間別教室情報

教室ごとに授業使用状況を表示します。



週間授業情報（個人の登録に合わせて、時間割形式で休講情報などを表示します。ただし、サービス開始は、聴講登録確定後になります。）



授業変更一覧（休講・補講・教室変更について一覧形式で表示します。）

利用方法

大谷大学ホームページ（<http://www.otani.ac.jp/>）より「学生向け情報提供システム」をクリックしてご利用ください。（利用するためには「学生向け情報提供システム」用のIDとパスワードが必要です）



今後の予定

一般掲示板でのカテゴリ追加、携帯電話の対応なども予定しています。サービス内容の変更については、「学生向け情報提供システム」「大谷大学広報」「学内掲示板」などに随時お知らせしていきます。また、今後の参考のために、学生の皆さんを対象に「パソコンに関するアンケート」を実施します。アンケートは、聴講登録表の配布ファイルに挟み込んでありますので、聴講登録（4月16日（水）～18日（金）受付）と同時に至誠館1F教務部に提出してください。ご協力をお願いします。

国際交流トピックス

一度は海外で学んでみませんか？

2003年度

国際交流科目 海外研修のお知らせ

教務部

今年度の国際交流科目を次の通り開講します。履修希望者は「履修要項」「授業概要」を読んだうえで、4月のオリエンテーション期間中に開催される「国際交流科目（海外語学・文化研修）説明予備登録会」に必ず出席し、予備登録をしてください。履修希望者多数の場合は選考になります。なお、国際情勢によっては、皆さんの安全確保のため中止にすることや現地事情により日程他を変更することもありますので、留意してください。

海外語学研修

短期中国語研修

中国東北師範大学（中国文化事情1・実践中国語1）

大学は吉林省長春市にあり、夏は涼しく研修に快適な気候です。授業はクラスごとに平日の午前中、現地大学の先生により全て中国語で「会話」や、「閲読」、「文化紹介」を中心に実施する予定です。午後はほぼ隔日で太極拳講座など課外活動に参加し、その他の午後は自由に過ごします。

3週間の中国語研修終了後は北

京を訪れ、万里の長城、故宮博物館ほか市内の見学研修を行います。

現地研修 8月3日(日)～
29日(金)予定
定員 30名
費用 28万円予定
滞在 大学寮、ホテル



短期英語研修

英国ノッティンガム大学（イギリス文化研究・実践英語（英））

ノッティンガムは、ロンドンから北へ約200キロのところにある緑豊かな地方都市です。週15時間の現地スタッフによる語学の授業に加え、イギリスの文化及び文学について学ぶ授業やコンピューターを使っ

た授業なども組み込まれる予定です。週末にはロレンスの生家を見学したり、ストラットフォードやヨークなどへも小旅行に出かけます。

3週間の研修の後は、ロンドンに4泊し、自由行動で市内を観光します。

現地研修 8月1日(金)～
28日(木)予定
定員 30名
費用 48万円予定
滞在 大学寮、ホテル

海外文化研修

インド仏教遺跡研修 (インドの宗教と文化)

「谷大生なら一度はインドへ！」という言葉は、本学のモットーのひとつです。仏陀の生涯にまつわる仏跡を訪ね、その現地で古代インドの息吹を感じながら、仏教が生まれた場所に佇んでその意味を考えます。協定校ジャワハルラルネルー大学教授によるインドの宗教と文化についての講義や学生との交流会も予定されています。

現地研修	班
	8月25日(月)~
	9月7日(日)予定
	班
	9月1日(月)~
	9月14日(日)予定
定員	各班50名 (内科目等履修生5名)
費用	30万円予定
滞在	ホテル



ヨーロッパ文化研修 (フランス) (ヨーロッパの宗教と文化)



「旅して学ぶフランス生活文化」をテーマに、フランス生活文化に直接かつ具体的に触れ、自分の目でフランス文化の基層を確認することをめざした研修です。キリスト教と深い繋がりをもつフランス文化を風土・歴史・言語・建築・芸術など研修中に車窓から目にする事柄すべてを通じて体験学習します。今年度はアルプス地方、オ

ーヴェルニュ地方、ブルゴーニュ地方をめぐりパリを訪れます。

現地研修	8月27日(水)~
	9月8日(月)予定
定員	30名
費用	30万円予定
滞在	ホテル

教 務 部

聴講登録について

文学部・短期大学・大学院、全学年とも4月に前期・後期・集中・通年を含めて1年間の全科目を一括登録します。詳細については『履修要項』を参照してください。

登録書類は記入に間違いのないことを確認の上、後述の期限を厳守してください。

なお、科目によってはオリエンテーション期間中に、説明会、受講科目・クラスの選択・抽選を行うものや、第1回目の授業で抽選を行うものがありますので、各自配布された登録関係書類で日程や手続方法を確認してください。

集中講義の受講に関しては、開講日程を時間割表などで確認し、

開講日・時限に重複のないよう注意してください。

記

[聴講登録期間]

4月16日(水)～18(金)

3日間とも午前9時～

午後4時30分

提出先：教務部

コンピューター処理上、上記の提出期限に遅れると登録ができなくなります。

[登録確認]

学生別時間割表配布日

5月6日(火)午前10時～

午後4時30分

配布場所：講堂1階ホワイエ

登録修正期間

5月6日(火)・7日(水)

2日間とも午前9時～午後5時

(この期間外の修正はできません)

修正窓口：教務部

各自時間割表を受領し、全科目が間違いなく打ち出されているか確認の上、

修正の必要のない場合は、各自で1年間保管してください。

修正が必要な場合は、教務部まで申し出てください。

* 修正時の窓口は混雑し、大変時間がかかります。修正の必要が無いように登録してください。

財 務 課

2003(平成15)年度前期学生納付金の納入について

納入期日の最終日は4月21日(月)です。 期日厳守

前期学生納付金の納入期日は4月20日までですが、最終日が金融機関の休業日のため、4月21日(月)までとなります。前期学生納付金の振込依頼書は、3月31日に大学より保証人(学費負担者)に発送しています。

保証人の住所変更等により4月7日頃になっても振込依頼書が届

かない場合や破損・紛失した時には再発行いたしますので、財務課まで申し出てください。

事情により学生納付金の納入が困難と予測される場合には、学生課にて学費延納の手続きを4月21日(月)までに行ってください。学費延納手続きには、「学費延納許可願(所定用紙)」および学費負担

者の所得証明書(納税証明書・源泉徴収表等)が必要です。

なお、後期学生納付金の納入期日は9月30日(火)までです。後期学生納付金の振込依頼書については、8月30日に大学より発送いたします。

図 書 館

グループ閲覧室の利用について

学習・研究活動を支援するため、図書館2Fにグループ閲覧室を4室用意しています。うち1室は、映像・音声設備を備えていま

す。図書館が所蔵する図書・資料を用いたグループ学習・研究に利用できます。利用を希望される方は、2Fカウンターで申し込んで

ください。

なお、利用時間は図書館開館時間内です。

盗難に注意

学年初めは何かと慌ただしく、ついすっかりとしてカバンなどを置いて席を離れることがありますか。

毎年、大切なカバンや貴重品の盗難にあうことがよく起こります。特に、食堂・図書館・教室など混雑する所では注意してくださ

い。自分の持ち物はしっかりと管理しましょう。万一、学内で盗難にあった場合、すみやかに学生課へ届けるとともに、キャッシュカード・クレジットカード・携帯電話などはすぐに取引停止の手続きを行い、警察へも届けてください。

また、大学近辺の路上で、自転

車に乗っていて自転車の前かごからカバンを盗られるという引ったくり事件が多発しています。かごに防犯ネットを被せたり、カバンを前かごに固定するなどして防犯対策を心がけてください。

学内・通学中などにケガをしたら

本学の全学生は「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険は、正課授業や課外活動中（試合や合宿を含む）および通学中に負傷し、定められた日数（正課授業で4日、通学中で7日、課外活動で14日）以上にわたり治療を要した場合に保険金が支払わ

れます。またキャンパス内での休憩時間中の事故や講義に行く途中に階段を踏み外して捻挫した場合、大学行事に参加していて負傷した場合なども対象となります。

この保険は事故発生から30日以内に大学から事故通知書類を提出する必要があります。事故が発生

した場合は、直ちに保健室へ届け出てください。また、授業中のケガは、授業担当教員に必ず報告してください。

詳しい内容のパンフレットは保健室に置いてあります。

定期健康診断の実施について

オリエンテーション期間中、4月9日(水)・10日(木)に定期健康診断を実施します。詳細については学生課掲示板、及び実施要領で確認し、指定された日時に必ず受診してください。

健康診断は受診するだけでなく後のフォローが大切です。受診後、再検査が必要な人は学生課及び保

健室の掲示板で呼び出します。呼び出されている場合は、すみやかに保健室に来てください。

また、教育実習や諸資格取得希望者、就職活動をする学生諸君は、活動時に「健康診断証明書」が必要となります。証明書は健康診断を受けないと発行できませんので必ず受診してください。

校医による健康相談

博綜館1階に保健室があります。保健室では保健師が常勤しています。また、毎週水曜日午後2時から4時の間、校医による健康相談を行っています。健康に不安があるとき、体調がすぐれないとき、身体や病気について、より詳しく知りたいときは、気軽に相談に来てください。

学生相談室

博綜館1階の学生相談室では、在学生の悩みや不安の相談に応じています。学業に対する不安、人間関係にまつわる不安、将来の進路に関する不安などひとりで悩まずに、学生相談室のドアをノックしてください。学生相談室ではカウンセラーがあなたの来室を待っています。

利用の方法は直接来室するか、または直通電話(075-411-8121)を利用してください。なお、相談内容は厳密に守秘されます。

また、神経科校医による医療相談を行っています。他人の視線が気になる、イライラが続いている、拒食・過食を繰り返しているなどで困っている方は、毎月第2・第

4水曜日午後(1時~4時)に学生相談室に相談してください。

進路就職センター

第1学年からのサービス紹介 ～キャリア形成を考える～

～学生生活を充実させよう～

表現力スキルアップ講習

-コミュニケーション能力を高めよう!-

他人との会話は得意ですか。年齢、性別の異なる相手ともスムーズに会話ができていますか。自信のない方、自信があるから試してみたい方、一度自分のコミュニケーション能力をはかり、更に高めてみませんか。

～資格取得を目指そう～

秘書技能検定対応ビジネスマナー講習

社会人となってから必要とされるビジネスマナーを、基本から応用まで幅広く学ぶ。

注：準1級は「ビジネスマナー講習の受講経験のある方」もしくは「秘書技能検定2級を取得している方」を対象とします。

*次回秘書技能検定試験は6月21日実施予定です。(要別途申込)

TOEICレベルアップ講習 第1回

企業が注目する600点の取得を目標として、第1回は初級レベル(400点)のヒアリングを中心とした対策講習を開講します。

次回TOEIC学内試験は7月中旬実施予定です。(要別途申込)

MOUS(Word・Excel)

対策講習 第1回

仕事をする上でもっとも使用されているWord(ワープロソフト)・Excel(表計算ソフト)の使用方法をマスターする講習です。また別途申込にてMOUS検定試験も受験していただけます。

初級システムアドミニストレーター

対策講習

初級システムアドミニストレーター試験は、ここ数年急速に普及したコンピューターに対応するために設けられた一般ユーザを対象とした試験です。

生産知識やパソコンの習熟度を示す客観的な尺度と認識され、企業でも積極的に受験を推奨しています。

表現力スキルアップ講習

説明会 4/11(金)17:50～

日程	時間	定員	受講料	テキスト代	受付期間
5月 9、16、23	17:50～20:00 但し、7/5のみ	50	10,000	受講料に含む	4/21～4/25 (～17:00)
6月 6、13、20、23、27、30					
7月 4、5、7	10:00～12:10				

秘書技能検定対応ビジネスマナー講習(2級) 第1回

日程	時間	定員	受講料	テキスト代	受付期間
5月 7、12、14、19、21、26、28	17:50～20:00	70	3,000	1,200	4/21～4/25 (～17:00)
6月 2、4、9、11、18					

秘書技能検定対応ビジネスマナー講習(準1級)

日程	時間	定員	受講料	テキスト代	受付期間
5月 8、15、22、29	17:50～20:00	10	5,000	1,500	4/21～4/25 (～17:00)
6月 5、12、19、26					
7月 3、10、17					

TOEICレベルアップ講習 第1回

日程	時間	定員	受講料	テキスト代	受付期間
5月 13、15、20、22、27、29	18:00～20:00	20	15,000	4,600	4/21～4/25 (～17:00)
6月 3、5、10、12、17、19、24、26					
7月 1、3、8					

MOUS対策講習 第1回

日程	時間	定員	受講料	テキスト代	受付期間
4月 15、22	16:10～19:20	30	5,000	学内書店購入	4/10～4/11 (～17:00)
5月 6、13、20、27					
6月 3、10、17、24					
7月 1					

初級システムアドミニストレーター対策講習

日程	時間	定員	受講料	テキスト代	受付期間
5月 10、17、24、31	10:00～14:00	30	25,000	受講料に含む	4/21～4/25 (～17:00)
6月 7、14、21、28					
7月 5、12					
8月 2、4、5、6、7、8					
9月 13、20、27					
10月 4、11					

～ 難関試験に早期から備えよう～

公務員受験特別講習 第4回

公務員希望者を対象に、今年度採用試験直前の受験対策講習を開講します。

今回の講習は、一般知識・一般知能分野（数的推理・判断推理・資料解釈）対策となります。受講は学年を問いません。

公務員受験特別講習

日程	時間	定員	受講料	テキスト代	受付期間
4月 14、15、21、22	17:50～19:20	50	3,500	1,000	4/7～4/10 (～17:00)
5月 6、12、13、19 20、26、27					
6月 2、3、9、10、17					

教員受験特別講習 第3回

今年度の教員採用試験に向けての教職教養科目対策講習を実施します。今年度教員採用試験を受ける方はぜひ受講してください。なお受講は学年を問いません。

教員受験特別講習

日程	時間	定員	受講料	テキスト代	受付期間
4月 15、17、22、2	17:50～19:20	50	3,500	500	4/7～4/10 (～17:00)
5月 6、8、13、15 20、22					
6月 24～27(面接・論作文)					

教職相談室では専門の教職アドバイザーが教員採用に関する相談を行っています。

開室時間は次のとおりです。気軽に利用してください。

教職相談室

〔開室時間＝月～金 13:30～17:30 場所＝至誠館2階〕

日程、時間、受講料等については予定です。実施要項、掲示に注意してください。

学生相談室から



夏目漱石が「ストレスなき社会」と書いてから九十三年になるが、医学的には一九五〇年にカナダのモントリオール大学のハンス・セリエ教授によるストレス学説の発表から注目され、この半世紀に社会・心理的に大きな問題となって、二十一世紀に解決の課題が託されている。ダイオキシシンやPCBのような内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）や、その他の有害な物質によるストレスは、もちろん避けなければならない。しかし、物理化学的なもの以外の生物的、社会・心理的なストレスは、その原因やきっかけの種類が多様であるにしても、多かれ少なかれこころが関与しているという点が共通しており、これをこころの問題として上手に扱うことにより、その身体への悪い影響や不安・抑うつ状態を防ぐ道があることをお知らせしたい。

こころの世界すなわち自己意識の内容は、一般的、論理的、実証的に構成された社会現象のような合理性はなく、そこには問いさえも成りたちようのない論理

ストレスとこころの世界

学生相談室の開室について

場所	曜日	相談室	学生相談員	相談日時
学生相談室 (博綜館1階)	月曜日	1	谷口奈青理	10時30分～16時00分
		2		
	火曜日	1	菊岡 千夏	10時30分～16時00分
		2		
	水曜日	1	宇佐 晋一 (神経科校医)	第2週4週 13時30分～16時00分
		2	佐賀枝夏文	10時30分～14時00分
木曜日	1	譲 西賢	10時30分～16時00分	
	2	菊岡 千夏		
金曜日	1		10時30分～16時00分	
	2	菊岡 千夏		

のことなる世界が広がっている。そもそもこれが自分だという意識からして虚妄なので、どのような環境の刺激にもストレスを生ずることは本来なのだと思えるのである。

(うさ) しんいち 神経科校医

宇佐 晋一

谷大エリア散策

第11回 品野豆腐店さん

烏丸北大路から北側を東へ、三筋目を少し北へ上がったところにあるお豆腐屋さん「品野豆腐店」の品野勇さん、智恵子さんご夫妻にお話を伺いました。



品野勇さんと奥様の智恵子さん

お店は古くからあるそうですね。ここで店を開いたのは昭和5年です。それまでは大宮七条の龍谷大学の近くにいたんです。先代がそこで8年ほど店をやっていて、当時は東本願寺や龍谷大学にもお豆腐を納めていました。うちのおじいさんはもともと漁師で、京都へやってきて豆腐屋になったんです。3年前に98歳で亡くなったんですが、90歳までお豆腐を作っていましたよ。

ここに来たとき、私(勇さん)は小学校2年生で、周りは畑ばかりで本当に何も無い所やったよ。他には大谷大学があるだけ。大谷大学も今ほど大きくなかったしね。この家からすぐ烏丸車庫が見えたね。4～5年経って、周りに家がぼつぼつ建ち始めたかな。その頃お豆腐は5銭やったね。

この辺りは水がきれいなんです

ね。水はいいよ。周りに大きな会社や工場がないからね。昔は井戸水を使っていたけれど、禁止になって、冷やすだけに使ってます。で

も毎年検査があるんやけど、ずっと結果はいいんですよ。

大谷大学との交流はありましたか

昔、学食へ豆腐を納めていました。商店街の三星堂さんが学食をやっておられた頃です。寮へも納めていたかな。校舎の中にあった寮ね。それから戦争の頃に学生さんを2階に下宿させていたこともあったかな。

昔の北大路の様子についてとにかく田んぼと畑の他は何にもないところ。でも鴨川が素晴らしいきれいでね。「こんなにいいところはない」と思ったね。市内のまん中の方とは全然違って、「京に田舎あり」という感じでね。風情があって良かった。鴨川の河原に大きくて立派な松の木が30～40本、上賀茂の方までずっと生えていたけれど、強風と排気ガスにやられてすっかり倒れてしまって、残念やね。府の総合資料館の辺りは牧場やったよ。

私(智恵子さん)がお嫁に来たのが昭和34年で、その頃お豆腐一丁が10円。お豆腐と風呂屋と市電の運賃が同じ値段やったよ。しばらくの間そうやった。今はお風呂屋さんが一番高くなってるね。

昔は北大路にはうどん屋がたくさんあったんやけど、少なくなっただね。大学の隣の辻本さん(やまと)はまだ頑張ってるね。市電が走っていた頃はお客さんも多くて、この辺りももうちょっと賑やかやったけど。お客さんが烏丸車庫で降りて、買い物して帰られるでしょう。それが地下鉄ができて北へ延びたら、もう真っすぐ帰らるだけ。交通や街が発展するほど、かえって地元のお店はあかんようになるんですよ。



品野豆腐店

お豆腐屋さんの暮らしについて朝は4時頃から起きて仕込みをします。お父さんは車に乗れないので、自転車で配達しています。前は上賀茂の近くまで行ってました。近所のお客さんに売るほか、警察病院と富田病院に納めています。



厨房の様子

昔は豆腐は豆腐屋にしか、野菜は八百屋にしか売ってなかったんですよ。今はいろんな食べ物が十分にあるし、スーパーに行ったら何でも売ってますから。息子たちは別の仕事に就いていて、この豆腐屋も私たちの代限りです。必要な分だけ作って、少しずつ、ほしいという人に売るだけです。

ありがとうございました

写真でふりかえる 大谷大学今昔



タゴール訪問の記念写真 中央タゴール 左に一人おいて鈴木大拙



アフターブ・セツト駐日インド大使

日印国交樹立記念行事

佐々木 令 信

二〇〇二年は、日本とインドの国交樹立五十周年であった。本学では十二月の三日間、「仏教伝来と日本・インド交流―インド文化に親しむ三日間―」というテーマのもと、インドデーを開催した。

初日は、「一五〇〇年における日印関係と展望」と題する文化講演会。講師は『象は瘦せても象である インドから見た巨象・日本の底力』の著者アフターブ・セツト駐日インド大使であった。

二日目は「インド舞踊オディッシーと北インド音楽の夕べ」、三日目は日印国交樹立記念作品「ミモラー心のままに」のインド映画の夕べ、また、全日程を通して、講堂では「インド仏蹟写真展」が行われ好評を博した。

アフターブ・セツト駐日大使の来校は、この時が三度目である。二〇〇〇年十二月、駐日大使就任に際し、日本における仏教研究の第一の大学として本学を表敬訪問されたのが最初である。この訪問の背景には、本学とインドとの深い交流がある。アジア初のノーベル文学賞を受賞した詩人タゴールが一九一七年、講演に訪れ、通訳をしたのは世界的仏教学者である鈴木大拙教授であった。また一九五七年には、父ネール首相に同行して来日した愛嬢インデラ・ガンジー（後のインド首相）が本学を訪問。ついで翌年にはラジエンドラ・プラサドインド大統領が本学を訪問され、本学の名誉博士第一号を贈呈している。記念講演で、大統領は「貴大学の学位に飾られたいなる榮譽を感じる。貴大学の伝統と、仏教の学問において常に深い研鑽を重ねつつあることを思うとき、大聖仏陀の偉大なる教法を学びつたえようとした故国ナラランダ大学の偉大なる姿を思い浮かべる」と述べている。更に一九六〇年にはC・P・N・シン前駐日インド大使も本学を訪問され、名誉博士第二号を贈呈している。

仏教を基礎とした本学とインドの交流には、これら先人の歩みがあったことも忘れてはならないであろう。

(わざわざ れいしん 教授 日本仏教史)

生涯学習講座のご案内

2003年度 前期開放セミナー

【水曜講座】 清沢満之 求道と思索の記録 - 『清沢満之全集』発刊にあたって - 日 程

回	月 日	講 師		テーマ
第1回	5月28日	安富 信哉	大谷大学教授	青年期・清沢満之の志願と思索
第2回	6月4日	今村 仁司	東京経済大学教授	求道としての哲学
第3回	6月11日	池上 哲司	大谷大学教授	『西洋哲学史講義』と『宗教哲学骸骨』- 論理から宗教へ -
第4回	6月25日	延塚 知道	大谷大学教授	精神主義とその時代
第5回	7月2日	寺川 俊昭	大谷大学名誉教授	仏教の革新
第6回	7月9日	神戸 和麿	大谷大学教授	信念の歩み(日記) - 樹心仏地 -
第7回	7月16日	小野 蓮明	大谷大学名誉教授	清沢満之の「信念」とその交流

時 間 / 17:50~19:20 (7月16日のみ17:50~19:40)

受 講 料 / 7,000円

内 容 / 『清沢満之全集』の発刊にあたり、各巻の解説を書かれた方々を講師として、安富教授のコーディネートによる、リレー講義を開講します。

申込〆切日 / 5月21日(水)

【金曜講座】 熊野信仰の歴史 熊野三山をめぐる信仰の諸相

日 程

回	月 日	テーマ
第1回	5月23日	熊野の原像
第2回	5月30日	「三熊野」- 山の熊野、海の熊野、窟の熊野 -
第3回	6月13日	熊野三山の成立と神仏習合
第4回	6月20日	熊野御幸と熊野信仰
第5回	7月4日	中世の熊野信仰「一遍及び勸進聖と庶民の熊野信仰」 ゲスト：山本殖生氏(新宮市教育委員会文化振興室長・熊野三山協議会幹事)
第6回	7月11日	近世の熊野信仰と西国巡礼

講 師 / 豊島 修(大谷大学教授)

時 間 / 17:50~19:20

受 講 料 / 6,000円

内 容 / いまもって歴史の謎であり、宗教の謎でもある熊野詣、その熊野信仰の歴史をさぐります。また、2004年に世界遺産登録される(見込)熊野の魅力について、現地の研究者である山本殖生氏を特別講師に、ビジュアル教材を用いて説明します。

申込〆切日 / 5月16日(金)

2003年度 前期紫明講座

「親鸞の教えに学ぶ - なぜ浄土なのだろうか - 」

日 程	回	月 日	テーマ
	第1回	5月13日(火)	人間で在ることの課題
	第2回	5月20日(火)	二つの国
	第3回	5月27日(火)	浄土真宗

講 師 / 中川 皓三郎 (大谷大学短期大学部助教授)
 時 間 / 17:50~19:20 受 講 料 / 3,000円
 内 容 / 「人間は国をもとめて流転している。国ということが魂の安ずるところでしょう。」
 (安田理深)という言葉があります。それほど「国」の問題は、人間にとって根源
 の問題であるといっているでしょう。
 親鸞の浄土の教えに学びながら、私たち人間は、どのような国をもとめて生きてい
 るのか、また、その国はどこに開かれるのか、そのことを尋ねてみたいと思っています。
 申込〆切日 / 5月6日(火)

「心の世界 生きている心理学・応用 」

日 程	回	月 日	テーマ
	第1回	6月2日(月)	「性格」といわれているもの
	第2回	6月9日(月)	心の育ちと人間関係
	第3回	6月16日(月)	人間関係にはたらく心

講 師 / 谷口 奈青理 (大谷大学講師)
 時 間 / 17:50~19:20 受 講 料 / 3,000円
 内 容 / 心理学への関心の背景には、人の心のとらえがたさについての不安があります。人
 が特に心を動かされる「人間関係」は、心理学的に見ると、どうなるのでしょうか。
 今までうまく理解できなかった出来事やこれから起こる出来事について、「これは
 そういうことだったのか。」と、心におさめることができるような、人間関係に関
 する心理学の枠組みを提供することで、日常生活への応用を試みます。
 申込〆切日 / 5月26日(月)

「荘厳の京都学 - 截金(きりかね)の世界 - 」

日 程	回	月 日	テーマ
	第1回	7月1日(火)	荘厳の京都学について
	第2回	7月8日(火)	截金の世界 ゲスト: 江里佐代子氏(截金作家 重要無形文化財「截金」保持者)
	第3回	7月15日(火)	截金の周辺

講 師 / 佐々木 令信 (大谷大学教授)
 時 間 / 19:00~20:30 受 講 料 / 3,000円
 内 容 / 京都学を荘厳の世界という視点で問い直します。京都における信仰の世界の表現は、
 文献のみならず、庭園、絵画、彫刻、工芸などのビジュアルな素材を通じて、わか
 りやすくとき明かすべきです。今回は、京都の伝統文化の一つ「截金の世界」に注
 目することによって、新しい角度から京都学を構築します。截金は金箔や銀箔を細
 線状あるいは三角、四角、菱形などに切って貼り、様々な文様を表す技法で、主と
 して仏画や仏像の彩色法の一手段です。
 申込〆切日 / 6月24日(火)

受講をご希望の方は、下記までお問い合わせ下さい。
 F A X、Eメールにてお申込の際には、講座名、住所、氏名(フリガナ)、電話番号、性別、年齢、職業を
 明記して下さい。

お問い合わせ先 教育研究支援課KO係
 TEL : 075-411-8161(直通) / FAX : 075-411-8162 / E-mail : opensemi@sec.otani.ac.jp

2003 (平成15) 年度 入学試験結果

一般入試 [第1期] 結果

文学部 (3教科型)

学部	学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格者得点	
							最高点	最低点
文学部	真宗学科	15	58 (7)	56 (7)	37 (6)	1.5	331	209
	仏教学科	10	58 (14)	57 (13)	46 (11)	1.2	377	175
	哲学	15	106 (35)	97 (31)	45 (22)	2.2	342	266
	社会学	35	374(173)	361(166)	123 (69)	2.9	354	290
	史学科	25	373 (96)	361 (94)	62 (20)	5.8	371	309
	文学	15	175 (95)	170 (93)	48 (31)	3.5	354	304
	国際文化	20	233(138)	227(136)	72 (56)	3.2	347	293
	人文情報	20	178 (62)	173 (62)	64 (30)	2.7	345	264
	合計	155	1,555(620)	1,502(602)	497(245)	-	-	-

文学部 (2教科型) ・短期大学部

学部	学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格者得点	
							最高点	最低点
文学部	真宗学科	25	71 (10)	70 (10)	56 (9)	1.3	150	90
	仏教学科	25	89 (28)	86 (27)	67 (23)	1.3	160	79
	哲学	20	108 (30)	100 (27)	60 (19)	1.7	173	122
	社会学	35	304(139)	290(132)	133 (80)	2.2	176	119
	史学科	10	64 (22)	60 (21)	19 (6)	3.2	160	139
	文学	20	114 (68)	112 (67)	50 (32)	2.2	171	130
	国際文化	25	245(121)	237(117)	77 (50)	3.1	177	138
	人文情報	25	162 (51)	154 (46)	95 (33)	1.6	158	106
	合計	185	1,157(469)	1,109(447)	557(252)	-	-	-
	短期大学部	仏教科	10	29 (3)	29 (3)	28 (3)	1.0	148
[第2志望]		-	-	-	11 (5)	-	-	62
文化学科		30	111 (85)	110 (85)	97 (77)	1.1	170	88
[第2志望]		-	-	-	16 (14)	-	-	88
幼児教育		25	128(106)	120 (99)	39 (37)	3.1	175	146
合計	65	268(194)	259(187)	164(117)	-	-	-	
[第2志望]	-	-	-	27 (19)	-	-	-	

[注1] () 内数字は女子内数。

[注2] 文学部3教科型は400点満点・文学部2教科型と短期大学部は200点満点。

大学院春季試験 (博士後期・修士) 結果

課程	専 攻	募集人員	区分	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
博士後期課程	真宗学	3	学内	6 (0)	6 (0)	5 (0)	1.2
			学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	仏教学	3	学内	6 (3)	6 (3)	4 (2)	1.5
			学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	哲学	3	学内	4 (2)	3 (1)	0 (0)	-
			学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	社会学	3	学内	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0
			学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
仏教文化	3	学内	4 (1)	4 (1)	2 (1)	1.5	
		学外	2 (0)	2 (0)	2 (0)		
国際文化	3	学内	3 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	
		学外	1 (0)	1 (0)	1 (0)		
合計	18	学内	24 (7)	22 (6)	14 (4)	-	
		学外	3 (0)	3 (0)	3 (0)		
		計	27 (7)	25 (6)	17 (4)		
修士課程	真宗学	定員(20)の50%程度	学内	10 (0)	10 (0)	9 (0)	1.1
			学外	3 (0)	3 (0)	3 (0)	
	仏教学	定員(20)の50%程度	学内	3 (0)	3 (0)	2 (0)	1.2
			学外	5 (0)	4 (0)	4 (0)	
	哲学	定員(10)の50%程度	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1.5
			学外	3 (1)	3 (1)	2 (1)	
	社会学	定員(10)の50%程度	学内	2 (1)	2 (1)	2 (1)	1.0
			学外	3 (0)	3 (0)	3 (0)	
	仏教文化	定員(20)の50%程度	学内	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0
			学外	4 (2)	3 (1)	3 (1)	
国際文化	定員(10)の50%程度	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1.0	
		学外	3 (2)	3 (2)	3 (2)		
合計	定員(90)の50%程度	学内	17 (1)	17 (1)	15 (1)	-	
		学外	21 (5)	19 (4)	18 (4)		
		計	38 (6)	36 (5)	33 (5)		
博士・修士合計			学内	41 (8)	39 (7)	29 (5)	-
			学外	24 (5)	22 (4)	21 (4)	
			計	65 (13)	61 (11)	50 (9)	

[注1] () 内数字は女子内数。

[注2] 倍率は、受験者数を合格者数で除したものを。

《他大学(大学院)出身合格者の出身大学(大学院)名》

【春季試験】

【博士後期課程】

各1名 京都大学大学院・関西大学大学院・京都産業大学大学院

【修士課程】

各1名 静岡大学・東京大学・ホーチミン市立技術大学・大阪芸術大学・関西学院大学・甲子園大学・専修大学・同志社大学・佛教大学・名桜大学・明星大学・龍谷大学
2名 立命館大学
3名 京都精華大学

一般入試 [第2期] 結果

学部	学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	合格者得点	
							最高点	最低点
文学部	真宗学科	5	17 (3)	15 (3)	9 (3)	1.7	77	55
	[第2志望]	-	-	-	12 (6)	-	-	65
	仏教学科	5	19 (4)	19 (4)	10 (3)	1.9	81	64
	[第2志望]	-	-	-	5 (2)	-	-	74
	哲学	5	39 (9)	39 (9)	17 (5)	2.3	87	68
	社会学	8	230 (72)	222 (68)	10 (8)	22.2	87	77
	史学科	5	100 (22)	96 (22)	20 (11)	4.8	88	75
	文学	5	77 (33)	76 (33)	20 (12)	3.8	89	74
	国際文化	5	88 (35)	87 (35)	25 (9)	3.5	85	71
	人文情報	5	73 (16)	73 (16)	10 (5)	7.3	84	75
合計	43	643(194)	627(190)	121(56)	-	-	-	
[第2志望]	-	-	-	17 (8)	-	-	-	
短期大学部	仏教科	5	10 (4)	9 (4)	8 (4)	1.1	93	55
	[第2志望]	-	-	-	19 (11)	-	-	56
	文化学科	10	82 (49)	79 (46)	18 (12)	4.4	89	67
	合計	15	92 (53)	88 (50)	26 (16)	-	-	-
[第2志望]	-	-	-	19 (11)	-	-	-	
総計			735(247)	715(240)	147(72)	-	-	-
[第2志望]			-	-	36 (19)	-	-	-

[注1] () 内数字は女子内数。

[注2] 得点は外国語・国語のいずれか1教科試験場で選択で100点満点。

文学部第3学年編入学試験結果

学 科	専門分野	区分	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
真宗	真宗学	学内	6 (0)	5 (0)	4 (0)	1.3
		学外	8 (0)	8 (0)	6 (0)	
仏教	仏教学	学内	3 (0)	3 (0)	2 (0)	1.2
		学外	4 (1)	4 (1)	4 (1)	
哲	西洋哲学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-
		学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	倫理学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-
		学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	宗教学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-
学外		0 (0)	0 (0)	0 (0)		
教育	教育学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-
		学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
社会	現代社会学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-
		学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	文化人類学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-
		学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
史	国史学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-
		学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	日本仏教史学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-
		学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	東洋史学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-
学外		0 (0)	0 (0)	0 (0)		
東洋仏教史学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-	
	学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
文	国文学	学内	1 (1)	1 (1)	0 (0)	-
		学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	中国文学	学内	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0
		学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
英文学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-	
	学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
ドイツ文学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-	
	学外	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
国際文化	国際文化学	学内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1.0
		学外	2 (1)	1 (0)	1 (0)	
合計		学内	12 (1)	11 (1)	8 (0)	-
		学外	14 (2)	13 (1)	11 (1)	
		計	26 (3)	24 (2)	19 (1)	

[注1] () 内数字は女子内数。

[注2] 倍率は、受験者数を合格者数で除したものを。

《他短大(大学)出身合格者の出身短大(大学)名》

各1名 大阪大学・東京芸術大学・弘前大学・追手門学院大学
・関西外国語大学短期大学部・京都産業大学・福岡大学・龍谷大学
3名 日本大学

出版物紹介

『日本仏教の近世』
大桑 斉 著
法蔵館刊 (2003.3) 232頁



『ゲーテとインド』
友田孝興 著
水馬洞刊(2003.2) 88頁



『The 54th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』
Monica Bethe 訳
Nara National Museum 刊
(2002.10) 39頁

- 論文集・分担執筆 -

『カントにおける認識主観の研究 - 超越論的主観の生成と構造 -』
村山保史 著
晃洋書房刊 (2003.3) 256頁



『Miracles and Mischief: Noh and Kyogen Theater in Japan』
Monica Bethe・Sharon Sadako Takeda 共著
Los Angeles Country Museum of Art 刊 (2002.11) 281頁

『草創期の敦煌學』
高田時雄 編
礪波護 竺沙雅章 分担執筆
知泉書館刊 (2002.12) 264頁

論集『仏教土着』
大桑 斉 編
法蔵館刊 (2003.3) 408頁

『清沢満之全集』
【編集委員】
小川一乗 寺川俊昭 久木幸男
今村仁司 小野蓮明 神戸和磨
安富信哉 延塚知道 池上哲司
須藤訓任 友田孝興 沙加戸弘
岩波書店刊
全9巻 平均450頁
現在第1巻～5巻まで刊行されています。

『言葉の芸術家ジェイムズ・ジョイス - 『ダブリンの人びと』研究 -』
米本義孝 著
南雲堂刊 (2003.3) 353頁



『熊野本願所史料』
鈴木昭英、豊島修、根井浄、山本殖生(熊野本願文書研究会) 共編
清水堂刊 (2003.2) 934頁



「大谷大学広報03 - 夏」発行のお知らせ

「大谷大学広報03 - 夏」の発行を7月に予定しています。さまざまなエッセイや連絡事項などを掲載する予定です。ぜひお読みください。広報は次の場所に置いてありますので、ご自由にお取りください。

博綜館ピロティ（博綜館入口横） 学内食堂 各研究室 至誠館（学生課カウンター前） 1号館1階 2号館1階

お詫び

前号の『大谷大学広報冬号』の中で誤りがありましたので、次のとおり訂正いたします。

2002年度秋季大会結果 (誤) 部Aブロック2位 9月16日 帝塚山大学 5-11
(正) 部Aブロック2位 9月16日 帝塚山大学 5-11

研究室だより

総合研究室から

4月から6月の研究室の開室は以下のとおりです。年度始宗教行事により一部変則的な開室日もあるので注意してください。

		1	2	3	4	5			
6	7	8	9	10	11	12			
13	14	15	16	17	18	19			
20	21	22	23	24	25	26			
27	28	29	30						

なお、開室日や開室時間の変更は、ホームページ、学内掲示板に掲載します。確認してください。

						1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24			
25	26	27	28	29	30	31			

短期仏教科研究室から

『仏教研究紀要』第25号が発刊されました。ご希望の方は短期仏教科研究室までお越し下さい。

									1
2	3	4	5	6	7				
8	9	10	11	12	13	14			
15	16	17	18	19	20	21			
22	23	24	25	26	27	28			
29	30								

- は響流館の休館日。
- は、10時開室 17時30分閉室
- は、9時開室 19時30分閉室
- は、9時開室 17時30分閉室

5月30日は宗祖誕生会のため、式典終了後開室（17時30分閉室）。

学会だより

大谷学会

春季公開講演会を開催します。
日時 5月27日(火)13時から
会場 本学講堂
講師 明治大学教授 越智道雄
本学教授 河内昭円
講演の題目等は、掲示、ポスターにてご確認ください。

真宗学会

4月中旬に真宗学会新入会員歓迎会及び総会を開催します。詳細は後日掲示しますので積極的に参加してください。

仏教学会

新入会員歓迎会 4月下旬から5月中旬に開催予定
研究発表例会 6月以降、2、3回開催の予定
詳細は後日掲示しますので積極的に参加してください。

哲学会

総会および『哲学論集』第49号合評会の開催を5月または6月に予定しています。

史学科

新入生歓迎講演会 5月に開催の予定

大谷中学校・高等学校からのお知らせ

平成15年度高校入試の受験生は、昨年を越える2246名となりました。京都で一番の応募者が集まり、大谷への注目が大きいことを改めて実感しております。

大谷中学高等学校の「オープンキャンパス&学校説明会」を次の日程で行います。入学希望者対象の行事ですが、一般の方々も自由に参加ください。

オープンキャンパス&学校説明会
7月31日(木) 午前9時30分～12時
内容

中学説明
(バタバアシステム、学校生活について)

高校説明
(バタバア、インテグラルコース、共学化について)

個人相談

(学校生活、クラブ活動等)
見 学
(施設、クラブ活動等)

平成15年度入試状況

	中学校	高等学校
志願者数	444名(-109)	2246名(+134)
合格者数	234名	2107名
入学者数	152名	423名

() 昨年比

九州大谷短期大学からのお知らせ

オープンカレッジ講座

平成15年度のオープンカレッジの講座を下記の通り開講いたします。おかげさまで、昨年度は約400名のご参加をいただきました。本年度は講座数も増え、多彩な内容になっております。ご参加くださいますようお願いしております。

講 座 名	講 師
大経、三毒・五悪段に学ぶ	宮城 顛
親鸞の手紙	宮城 顛
正信偈講話	古田和弘
阿弥陀経を読む	小林博聞
歎異抄に聞く	大江憲成
源氏物語の光と影を読む	吉田隆治ほか
夏目漱石『こころ』を読む	斉藤英雄
日本語コミュニケーション能力養成講座	穴見嘉秀
読書アニメーション講座	穴見嘉秀
芝居実演テクニック講座	穴見嘉秀
初歩の読み聞かせ講座	山田真里子ほか
九州文芸風土抄	椎窓 猛
ふるさと再発見	筑後郷土史研究会
川と古代文化	赤崎敏男ほか
戯曲の読み方、演じ方	五十嵐康治
映画で演劇をみる、演劇で映画を考える	梁木靖弘
発声と朗読レッスン	斎藤豊治
「介護福祉士」国家試験対策講座	栗村典男ほか
こころと人間関係	山田真里子ほか
箱庭治療法研修会	山田真里子ほか
子ども相談室	山田真里子ほか
ファースト・ステップ英会話	ベンカート・ジョセフ
らくらくわかる韓国語会話	朴 明 喜
音を楽しむ	秋山 喬
パソコンで遊ぼう	加藤真知子
初めてのExcel	坂川和彦
パソコンでビデオ編集	大城 清

お問い合わせ・パンフレット請求先
九州大谷短期大学 生涯学習センター
URL <http://www.kyushuotani.ac.jp/>

2003年3月発売 新しい絵本ができました。

『小さな花』



A4変形23頁

定価1050円(税込)

作者：ゆたか まゆこ(綽 真唯子)

1982年熊本県生まれ。荒尾市在住。

熊本県立荒尾高校を経て、九州大谷短期大学在学中。

お問い合わせ・パンフレット請求先
九州大谷文化センター「九州大谷の本」係
URL <http://www2.saganet.ne.jp/koccc/>

住所・電話番号
〒833-0054 福岡県筑後市蔵数495-1
TEL: 0942-53-9900 FAX: 0942-53-9901

教育振興資金寄付者芳名

教育振興資金寄付金(敬称略)

件 数 2件
ご寄付総額 300,000円

杉 浦 義 孝 ・ 長 尾 真

《教員研究室一覽表》

博 綜 館		
階	部屋番号	教員名
2F	211	荒井 とみよ
	212	鈴木 繁一
	213	河内 昭円
	214	若槻 俊秀
	215	友田 孝興
	216	石橋 義秀
	217	沙加戸 弘
	218	村瀬 順子
	219	村井 英雄
	220	米本 義孝
3F	311	堀尾 孟之
	312	草野 顕之
	313	皇 紀夫
	314	加藤 尚子
	315	豊島 修
	316	長谷 正當
	317	谷 泰
	318	大山 喬平
	319	木場 明志
	320	佐々木 令信
	321	大和 正克
	322	西田 潤一
	323	中桐 伸吾
	324	大内 文雄
325	N. A. ワデル	
326	礪波 護治	
327	並木 治	
4F	411	松村 尚子
	412	一郷 正道
	413	荒牧 典俊
	414	小川 一乘
	415	門脇 健
	416	蜂屋 良彦
	417	間庭 充幸
	418	池上 哲司
	419	須藤 訓任
	420	滝口 直子
	421	鈴木 幹雄
	441	寺林 脩
442	佐賀枝 夏文	
5F	511	宮下 晴輝
	512	安富 信哉
	513	兵藤 一夫
	514	村上 學
	515	延塚 知道
	516	神戸 和麿
	517	木村 宣彰
	518	吉元 信行
	519	白館 戒雲
	520	崎野 隆
	521	塚田 秀雄
	522	M. A. ベーテ
	523	小谷 信千代
	541	小野 蓮明
	542	藤嶽 明信
	543	R. F. ローズ
	544	—
545	織田 顕祐	

聞 思 館		
階	部屋番号	教員名
1F	10	谷口 奈青理
	11	山野 俊郎
	12	宮崎 健司
	13	安井 喜行
	14	加来 雄之
	15	村山 保史
	16	村松 法文
	17	大城 邦義
	18	一楽 真
	19	木越 康
	20	佐藤 義寛
	21	杉山 正治
	22	加治 洋一
	23	柴田 みゆき
	24	番場 寛
	25	水島 見一
	26	三宅 伸一郎
	27	赤瀬 知子
	28	福田 洋一
29	李 青	
30	片岡 裕	
31	中森 一郎	
32	高井 康弘	
3F	40	井上 摩紀
	41	関口 敏美
	42	山本 貴子
	43	松川 節
	44	泉 惠機
	45	吉田 孝夫
	46	禿 憲仁
	47	渡部 洋
	48	矢野 のり子
	49	廣瀬 幸市
	50	鄭 早苗
	51	山本 和彦
52	田中 裕喜	
4F	60	D. ヴェステル
	61	東館 紹見
	62	平野 寿則
	63	三木 彰円
	64	井上 尚実
	65	浅若 裕彦
	66	芦津 かおり
	67	山下 憲昭
	68	浦山 あゆみ
	69	浅見 直一郎
70	渡辺 啓真	
71	A.デッケ=コルニル	
72	桂 華淳	

二 号 館		
階	部屋番号	教員名
1F	101	一色 順心
	102	中川 皓三郎
	103	藤本 芳則
	104	藤田 昭彦
	105	築山 修道
3F	106	豊住 征子
BF	107	岡崎 紀子

2003年度（平成15年度）学年暦

【前期】

日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
			1	2	3	4	5	4月1日(火) *学年始 *宗祖誕生日
								4日(金) *入学式
4	6	7	8	9	10	11	12	4日(金) *オリエンテーション
								10日(木) (若葉祭を含む)
								8日(火) *釈尊降誕日
月	13	14	15	16	17	18	19	11日(金) *前期授業開始
								16日(水) *聴講登録表提出期間
								18日(金)
								21日(月) *前期学費納入最終日
								28日(月) *宗祖御命日勤行・講話
								29日(火) *みどりの日
								30日(水) *臨時休業日
5	4	5	6	7	8	9	10	5月2日(金)
								3日(土) *憲法記念日
								5日(月) *こどもの日
月	11	12	13	14	15	16	17	6日(火) *時間割表配布
								6日(火) *登録修正期間
								7日(水)
								28日(水) *宗祖御命日勤行・講話
								30日(金) *宗祖誕生会
6	1	2	3	4	5	6	7	6月2日(月) *「研究題目届」提出最終日
								(修士第1学年)
								「研究計画書」提出最終日
								(博士第1学年)
月	8	9	10	11	12	13	14	
								24日(火) *宗祖御命日勤行・講話
								30日(月) *「卒業論文・修士論文・卒業研究」提出最終日
								(前期卒業・修了予定者)
								*「卒業論文・修士論文・卒業研究題目届」提出最終日
								(明年3月卒業・修了予定者)
7	6	7	8	9	10	11	12	7月17日(木) *補講期間
月	13	14	15	16	17	18	19	18日(金)
								22日(火) *前期定期試験
								31日(木)
								21日(月) *海の日
								28日(月) *宗祖御命日勤行
8						1	2	8月1日(金)
月	3	4	5	6	7	8	9	*夏期休暇
								9月20日(土)
								8日(月) *集中講義期間
								19日(金)
								15日(月) *敬老の日
								22日(月) *後期授業開始
								*前期履修単位通知書交付
9		1	2	3	4	5	6	23日(火) *秋分の日
月	7	8	9	10	11	12	13	24日(水) *宗祖御命日勤行・講話
								30日(火) *卒業証書授与式
								*前期学位記授与式
								*後期学費納入最終日
								*前期終了
								30日(火) *登録修正期間
								10月2日(木)

【後期】

日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
				1	2	3	4	9月30日(火) *登録修正期間
								10月2日(木)
10	5	6	7	8	9	10	11	10日(金) *開学記念式典・臘扇忌
								13日(月) *開学記念日
								13日(月) *体育の日
月	12	13	14	15	16	17	18	
								28日(火) *宗祖御命日勤行・講話
								31日(金) *「卒業研究」提出最終日
								(仏教科・文化学科)
								11月3日(月) *文化の日
								6日(木) *学園祭期間
								10日(月)
11	2	3	4	5	6	7	8	
月	9	10	11	12	13	14	15	23日(日) *勤労感謝の日
								24日(月) *振替休日
								27日(木) *大学報恩講
								28日(金) *宗祖御正忌
								12月1日(月) *「卒業研究」提出最終日
								(幼児教育科)
								10日(水) *「修士論文」提出最終日
								23日(火) *天皇誕生日
								24日(水) *月曜日の授業日
								25日(木) *補講期間
								26日(金)
								27日(土) *宗祖御命日勤行
								29日(月) *冬期休暇
								1月7日(水)
								1月1日(木) *元日
								7日(水) *修正会
								8日(木) *授業再開
								12日(月) *成人の日
								13日(火) *「卒業論文」提出最終日
								21日(月) *後期定期試験
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
1	4	5	6	7	8	9	10	
月	11	12	13	14	15	16	17	27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
2	8	9	10	11	12	13	14	
月	15	16	17	18	19	20	21	27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)
								2月2日(月)
								1月28日(水) *宗祖御命日勤行
								2月11日(水) *建国記念の日
								27日(金) *宗祖御命日勤行
								*「研究成果報告書」提出最終日(博士後期課程)

年末、卒業生S君が5年ぶりに訪ねてきた。北門や新図書館に驚いた彼は、浦島太郎の気分を味わったようだ。「聞思館は全然違ってなくてほっとします。」と妙な感心の仕方をした。あれこれ話に花が咲き、次第に話題が尽きてきた頃、不意に彼が言った。「建物は僕らの頃よりはるかに立派になったけど、何となく学内がきたない感じがするのはなんでかな…」と。そこで、なぜそう思うのかS君と一緒に考えてみた。

第一に、吸殻から喫煙マナーの低さが見えてくること。研究室へ来る途中、階段や廊下に無数の吸殻を見たという。「僕らの頃はあ

まり落ちてなかったと思うんですが。ここは古いんだから、もっと火の用心をしないと危険ですよ!」確かにその通りだ。ちょうど卒論の時期で学生の通行量が多く、火を消さずに歩く不心得者もいる。「構内禁煙」の掲示はあるが、平気で歩行中に喫煙する者も多い。非常勤の友人は、「歩きたばこ」を注意したら、「(たばこを手を持っているが)今は吸っていません!」と猛然と反発されたという話だ。観察していると、なるほど吸わずに指に挟んで歩いている者が案外いる。「それなら火を消せばいいのに、“禁煙”を自分に都合よく解釈しすぎだ」とS君は後輩の身

勝手な振る舞いに憤慨していた。

第二に、放置された食器から社会性や常識の欠如が見えてくること。S君はショックだったという。「なぜ返却しないのだろうか。コンビニの店先で食べ散らかして片づけないのと同じですよ。」彼は「非常識だ!」と嘆いたが、これが最近の情けない現実だ。年齢の近いS君でさえ理解困難な世代の出現である。多分彼らは自分で片づけをするものとは全く思っていない。コンビニならすぐ店の人が掃除するし、大学だって係の人が片づけるだろう等と無邪気に考えているのかもしれない。「つまりは常識や公共心の欠如という

話題の広場 SQUARE

21世紀の大学生に足りないもの

関口 敏美



絵 内山智廣

ことですね。これからは学生時代にもっとマナーを教えておかないと、後で大学が恥をかきますよ。」

残念ながら、実はもう恥をかきつつある。近年、周辺住民から苦情が出て、マナー向上キャンペーン中だと言うと、彼はかなり落ち込んだ様子だった。そこで「大学が周辺住民から苦情を持ち込まれているのは今や全国的な傾向である」という雑誌の切り抜きを見せると、「だからといって安心してはダメですよ。僕はとても危機感を深めました。」と帰って行った。

S君と話していて気がついた。彼は7年以上前と今とを比較するから、変化の大きさを直視せざるをえない。だから後輩の非常識な行動に腹が立つのだ。ところが私は非常識な行動に徐々に馴らされ鈍くなっていた。何度注意しても

しぶとい不心得者を「今の学生は…」と簡単に割り切り、深刻に考えなくなっていたのだ。授業中にケータイでメールをする等、S君の頃には想像もつかなかった事態が今や当たり前だ。このため新入生を「高校4年生」として訓練し、生活指導を行う大学も出てきた。

もともと大学は、学生の自主性に多くを任せる場所だ。ここには彼らが常識的に行動可能な大人だという前提がある。しかし学生が基本的なマナーも知らずに入学してくるのなら、大学で社会常識や公共心等を教えざるをえない。非常識な行動には、逸脱していることを気づかせなければならない。かつて「一人前」とは、社会規範に沿って行動できる人間を意味し、自律心や自制心が要求された。若者は時には失敗し痛い目に遭い

ながら「一人前」の許容範囲を身を以て学び、「一人前」として振る舞える力を身につけた。この意味で自覚と努力に欠ける今どきの学生に「一人前」の資格はない。

それにしても、21世紀にもなって大学生にしつけや生活指導が必要になるうとは、誰が想像したであろうか。さえない話である。「今どきの大学生は常識がない」、「マナーを知らない」といった汚名を一刻も早く返上するために、「一人前」として社会で通用するだけの力を培うべきだ。「裏ワザ」や「秘策」ばやりの昨今だが、こればかりは地道に取り組んで行くしかない。目覚めよ、学生諸君!

(せきぐち としみ
助教授 教育学・教育史)